

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

帝大病第 23-786 号
令和 5年 10月 5日
開設者名 学校法人 帝京大学
理事長 冲永 佳史

帝京大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒 173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
氏名	学校法人 帝京大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

帝京大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒 173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1
電話(03)3964 - 1211(代)

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科		4腎臓内科
○	5脳神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科	○	4心臓外科
○	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	緩和ケア内科	2	腫瘍内科	3	形成外科	4	病理診断科	5	リハビリテーション科
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
47				1027	1074

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	586	27	587.0	看護補助者	5	診療エックス線技師	
歯科医師	11	7	11.1	理学療法士	27	臨床検査技師	80.55
薬剤師	79	1.025	79.1	作業療法士	10	衛生検査技師	
保健師				視能訓練士	11	その他	
助産師	41		41	義肢装具士		あん摩マッサージ指圧師	
看護師	1006	8.3	1014.3	臨床工学士	20	医療社会事業従事者	
准看護師				栄養士		その他の技術員	
歯科衛生士	5			歯科技工士		事務職員	184.2
管理栄養士	9	0.375	9.0	診療放射線技師	51.93	その他の職員	19.6

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	51	眼科専門医	10
外科専門医	38	耳鼻咽喉科専門医	10
精神科専門医	8	放射線科専門医	18
小児科専門医	20	脳神経外科専門医	7
皮膚科専門医	12	整形外科専門医	36
泌尿器科専門医	6	麻酔科専門医	28
産婦人科専門医	16	救急科専門医	23
		合計	283

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (澤村 成史) 任年月日 令和 5 年 4 月 1 日

別紙 1 参照

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	614.4 人	2.2 人	616.6 人
1日当たり平均外来患者数	1451.8 人	39.8 人	1491.6 人
1日当たり平均調剤数	1427.5		剤
必要医師数	149.39		人
必要歯科医師数	1		人
必要薬剤師数	21		人
必要(准)看護師数	361		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	有
集中治療室	1,504.53 m ²		60 床	有	心電計	有
				有	心細動除去装置	有
				有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	178.86	m ²	病床数	12 床
	[移動式の場合]	台数	2	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	30.81			m ²
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	19.29 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 低温恒温器,中央実験台,キューリーメータ			
細菌検査室	140.6 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査装置,生物顕微鏡,安全キャビネット			
病理検査室	264.05 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ミクローム,自動固定包埋装置,顕微鏡			
病理解剖室	74.58 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台,臓器撮影台,臓器固定水洗槽			
研究室	3,067.52 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ドラフトチャンバー等			
講義室	488.9 m ²	鉄筋コンクリート	室数	13 室	収容定員	260 人
図書室	3,020.73 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	蔵書数	235000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	86.8	%	逆紹介率	64.8	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		19,328		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		17,346		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		3,903		人
	D: 初診の患者の数		26,775		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
寺尾 壽夫	東京都医師国保組合議 員 脳神経内科医師	○	・医療に係る安全管理 に関する識見を有する 者 ・脳神経内科医師として 医療に造詣が深いため	無	1
秦 奈峰子	太田・佐藤法律事務所 弁護士・医師		・医療に係る安全管理 及び法律に関する識見 を有する者 ・医師と弁護士の資格 を持ち医療と法律双方 を理解されているため	無	1
橋本 恵正	当院の患者代表		・医療を受ける者その 他の医療従事者以外の 者 ・当院に通院歴のある 患者を代表して	無	2
川村 雅文	学校法人帝京大学医学 部長		・当院での臨床経験が ある中立な評価ができ る立場にある者 ・医学部を統括する者と して	有	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページに公表	

2022年4月1日～2023年3月31日

○1承認を受けている先進医療(第2)

→なし

○2承認を受けている先進医療(第3)

先進医療の種類	取扱患者数(人)
ペムトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与併用療法肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	0
S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	0
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)[外科的治療を実施する施設]	0
ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺がん(ステージがⅢB期、ⅢC期若しくはⅣ期又は術後に再発したものであって、化学療法が行われたものに限る。)	0

○7健康保険法の規定による療養に要する費用額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

→ なし

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	出生前診断	取扱患者数	150
当該医療技術の概要 NIPT(母体血胎児染色体検査)に対する遺伝カウンセリング、検査実施(自費診療)			
医療技術名	遺伝カウンセリング	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 悪性腫瘍患者に対するがん遺伝子パネル検査の実施、遺伝学的検査に対する遺伝カウンセリング実施			
医療技術名	無痛分娩	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 硬膜外麻酔や脊髄くも膜下麻酔を使って分娩時の痛みを和らげる医療			
医療技術名	重症喘息に対する生物学的製剤治療	取扱患者数	100
当該医療技術の概要 重症喘息に対して、5種の生物学的製剤が使用可能であるが、その適切な選択には、炎症の表現型の確定、同時に適応を有する鼻疾患等のスクリーニング、経済的配慮、適切な効果判定等の専門的判断が必要である。当科は、十分な評価システムとアレルギー専門医、呼吸器専門医を擁しており、適切な生物学的製剤治療に貢献している。			
医療技術名	超音波ガイド下経気管支針生検	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 肺癌の適切な治療方針決定には、縦隔リンパ節への腫瘍進展を適切に評価する必要がある。 また、サルコイドーシス、悪性リンパ腫等では、縦隔リンパ節生検が適切な診断に必要である。当科では、気管支鏡を用いた超音波ガイド下経気管支針生検で、血管穿刺を回避しながら、安全に検査を施行し、正確な診断を行っている。			
医療技術名	Transjugular Intrahepatic Portosystemic Shunt (TIPS)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 難治性腹水や、内視鏡治療やIVRでの治療が不応の食道胃静脈瘤に対して、下大静脈と門脈系を直接短絡させる手技。技術的にも難しいことから、国内で技術的にも、実施可能施設が乏しく帝京大学で施行した。尚、国内で定期的に行っている施設は本校のみである。			
医療技術名	肝内リンパ管塞栓術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 乳び胸水を代表とするリンパ漏に対して、これまで直視下に胸管結紮を行ってきたが、血液と異なり、リンパ液は、透明であり治療成績は十分なものではない。我々は、リンパ路を造影剤で描出し直接胸管を穿刺し、経皮的に塞栓術を行った。これまでは、外傷性乳糜胸水や、特発性乳糜胸水症例に対して実施していたが、今年度は新たに乳糜心嚢液症例に対して実施し良好な経過を辿っている。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	7
取扱い患者数の合計(人)	334

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	別紙 3 参照		56		
2			57		
3			58		
4			59		
5			60		
6			61		
7			62		
8			63		
9			64		
10			65		
11			66		
12			67		
13			68		
14			69		
15			70		
16			71		
17			72		
18			73		
19			74		
20			75		
21			76		
22			77		
23			78		
24			79		
25			80		
26			81		
27			82		
28			83		
29			84		
30			85		
31			86		
32			87		
33			88		
34			89		
35			90		
36			91		
37			92		
38			93		
39			94		
40			95		
41			96		
42			97		
43			98		
44			99		
45			100		
46			101		
47			102		
48			103		
49			104		
50			105		
51			106		
52			107		
53			108		
54			109		
55			110		

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	103
合計患者数(人)	2,041

指定難病の診療実績 2022年度

番号	疾病名	患者実数
1	球脊髄性筋萎縮症	6
2	筋萎縮性側索硬化症	27
3	脊髄性筋萎縮症	4
4	進行性核上性麻痺	10
5	パーキンソン病	78
6	大脳皮質基底核変性症	6
7	シャルコー・マリー・トゥース病	2
8	重症筋無力症	124
9	多発性硬化症／視神経脊髄炎	78
10	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	39
11	封入体筋炎	3
12	多系統萎縮症	4
13	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	21
14	ライソゾーム病	3
15	副腎白質ジストロフィー	1
16	ミトコンドリア病	7
17	もやもや病	17
18	全身性アミロイドーシス	8
19	神経線維腫症	8
20	天疱瘡	8
21	膿疱性乾癬(汎発型)	28
22	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1
23	高安動脈炎	6
24	巨細胞性動脈炎	11
25	結節性多発動脈炎	6
26	顕微鏡的多発血管炎	28
27	多発血管炎性肉芽腫症	14
28	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	36
29	悪性関節リウマチ	6
30	バージャー病	2
31	原発性抗リン脂質抗体症候群	3
32	全身性エリテマトーデス	217
33	皮膚筋炎／多発性筋炎	78
34	全身性強皮症	48
35	混合性結合組織病	22
36	シェーグレン症候群	35
37	成人スチル病	22
38	再発性多発軟骨炎	4
39	ベーチェット病	141
40	特発性拡張型心筋症	20
41	肥大型心筋症	4
42	再生不良性貧血	15
43	自己免疫性溶血性貧血	4
44	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
45	特発性血小板減少性紫斑病	39
46	原発性免疫不全症候群	4
47	IgA腎症	17
48	多発性嚢胞腎	22
49	黄色靭帯骨化症	7
50	後縦靭帯骨化症	15
51	広範脊柱管狭窄症	2
52	特発性大腿骨頭壊死症	12
53	下垂体性ADH分泌異常症	12
54	下垂体性PRL分泌亢進症	6

番号	疾病名	患者実数
55	クッシング病	2
56	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	10
57	下垂体前葉機能低下症	37
58	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
59	サルコイドーシス	38
60	特発性間質性肺炎	28
61	肺動脈性肺高血圧症	2
62	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3
63	リンパ脈管筋腫症	2
64	網膜色素変性症	21
65	バッド・キアリ症候群	3
66	特発性門脈圧亢進症	1
67	原発性胆汁性肝硬変	35
68	原発性硬化性胆管炎	12
69	自己免疫性肝炎	28
70	クローン病	112
71	潰瘍性大腸炎	208
72	好酸球性消化管疾患	3
73	若年性特発性関節炎	4
74	先天性ミオパチー	2
75	筋ジストロフィー	11
76	アイザックス症候群	1
77	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1
78	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1
79	結節性硬化症	1
80	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	14
81	マルファン症候群	2
82	ウィルソン病	3
83	プフダー・ウィリ症候群	1
84	急速進行性糸球体腎炎	5
85	抗糸球体基底膜腎炎	1
86	一次性ネフローゼ症候群	41
87	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
88	紫斑病性腎炎	1
89	オスラー病	2
90	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1
91	副甲状腺機能低下症	1
92	タンジール病	1
93	家族性地中海熱	1
94	強直性脊椎炎	8
95	リンパ管腫症/ゴーハム病	1
96	クリッペル・トレノネ・ウェーバー症候群	1
97	後天性赤芽球癆	1
98	胆道閉鎖症	1
99	IgG 4関連疾患	8
100	好酸球性副鼻腔炎	31
101	先天異常症候群	1
102	無虹彩症	1
103	特発性多中心性キャッスルマン病	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 別紙 4 参照	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 別紙 5 参照	

2023年9月1日現在

●基本診療料の施設基準

- ・特定機能病院入院基本料（一般：7対1、精神：13対1）
- ・臨床研修病院入院診療加算
- ・救急医療管理加算
- ・超急性期脳卒中加算
- ・妊産婦緊急搬送入院加算
- ・診療録管理体制加算1
- ・医師事務作業補助体制加算2（50対1）
- ・急性期看護補助体制加算（25対1 看護補助者5割未満）
- ・看護職員夜間配置加算（12対1配置加算2）
- ・療養環境加算
- ・重症者等療養環境特別加算
- ・無菌治療室管理加算1・2
- ・緩和ケア診療加算
- ・精神科身体合併症管理加算
- ・精神科リエゾンチーム加算
- ・がん診療連携拠点病院加算
- ・栄養サポートチーム加算
- ・医療安全対策加算1
- ・感染対策向上加算1
- ・患者サポート体制充実加算
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ・ハイリスク妊娠管理加算
- ・ハイリスク分娩管理加算
- ・術後疼痛管理チーム加算
- ・後発医薬品使用体制加算2
- ・病棟薬剤業務実施加算1・2
- ・データ提出加算2のイ
- ・入退院支援加算1
- ・精神疾患診療体制加算
- ・精神科急性期医師配置加算2のイ
- ・地域医療体制確保加算
- ・救命救急入院料1・4
- ・特定集中治療室管理料3・4
- ・総合周産期特定集中治療室管理料
- ・新生児治療回復室入院医療管理料
- ・小児入院医療管理料1

- ・地域歯科診療支援病院歯科初診料
- ・歯科外来診療環境体制加算 2
- ・看護職員処遇改善評価料

2023年9月1日現在

●特掲診療料の施設基準

- ・外来栄養食事指導料の注2、注3に規定する基準
- ・心臓ペースメーカー指導管理料（植込型除細動器移行期加算）
- ・心臓ペースメーカー指導管理料（注5に規定する遠隔モニタリング加算）
- ・高度難聴指導管理料
- ・慢性維持透析患者外来医学管理料の腎代替療法実績加算
- ・糖尿病合併症管理料
- ・がん性疼痛緩和指導管理料
- ・がん患者指導管理料ロ・ハ・ニ
- ・外来緩和ケア管理料
- ・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）
- ・糖尿病透析予防指導管理料
- ・婦人科特定疾患治療管理料
- ・腎代替療法指導管理料
- ・一般不妊治療管理料
- ・生殖補助医療管理料1
- ・二次性骨折予防継続管理料1・3
- ・下肢創傷処置管理料
- ・院内トリアージ実施料
- ・外来放射線照射診療料
- ・外来腫瘍化学療法診療料1
- ・連携充実加算
- ・ニコチン依存症管理料
- ・がん治療連携計画策定料
- ・がん治療連携管理料1
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- ・薬剤管理指導料
- ・医療機器安全管理料1・2・(歯科)
- ・歯科治療時医療管理料
- ・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料 遠隔モニタリング加算
- ・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定
- ・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
- ・造血器腫瘍遺伝子検査
- ・遺伝学的検査
- ・染色体検査の注2に規定する基準

- ・骨髄微小残存病変量測定
- ・BRCA1 / 2 遺伝子検査
- ・がんゲノムプロファイリング検査
- ・先天性代謝異常症検査
- ・HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- ・検体検査管理加算（Ⅰ）・（Ⅳ）
- ・国際標準検査管理加算
- ・遺伝カウンセリング加算
- ・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
- ・植込型心電図検査
- ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・胎児心エコー法
- ・ヘッドアップティルト試験
- ・単繊維筋電図
- ・脳波検査判断料 1
- ・神経学的検査
- ・補聴器適合検査
- ・黄斑局所網膜電図及び全視野精密網膜電図
- ・ロービジョン検査判断料
- ・小児食物アレルギー負荷検査
- ・内服・点滴誘発試験
- ・センチネルリンパ節生検（片側）
- ・前立腺針生検法（MR I 撮影及び超音波検査融合画像によるもの）
- ・画像診断管理加算 1・2
- ・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
- ・CT 撮影及び MRI 撮影
- ・冠動脈 CT 撮影加算
- ・血流予備量比コンピューター断層撮影
- ・外傷全身 CT 加算
- ・大腸 CT 撮影加算
- ・心臓 MRI 撮影加算
- ・乳房 MRI 撮影加算
- ・頭部 MRI 撮影加算
- ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・外来化学療法加算 1
- ・無菌製剤処理料
- ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）

- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・歯科口腔リハビリテーション料2
- ・通院・在宅精神療法の療養生活継続支援加算
- ・精神科ショート・ケア「大規模なもの」
- ・精神科デイ・ケア「大規模なもの」
- ・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
- ・医療保護入院等診療料
- ・静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
- ・多血小板血漿処置
- ・硬膜外自家血注入
- ・エタノールの局所注入（甲状腺）
- ・人工腎臓（慢性維持透析を行った場合1）
- ・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
- ・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- ・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
- ・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
- ・一酸化窒素吸入療法（新生児の低酸素呼吸不全に対して実施するものに限る。）
- ・口腔粘膜処置
- ・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
- ・皮膚悪性腫瘍切除術（センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
- ・皮膚移植術（死体）
- ・組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
- ・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算
- ・緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
- ・骨移植術（軟骨移植術含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
- ・後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）
- ・椎間板内酵素注入療法
- ・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
- ・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- ・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便失禁）
- ・角結膜悪性腫瘍切除手術
- ・角膜移植術（内皮移植加算）
- ・羊膜移植術
- ・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））

- ・緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
- ・緑内障手術（濾過胞再建術（needle法））
- ・網膜附着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）
- ・網膜再建術
- ・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
- ・植込型骨導補聴器（直接振動型）植込術、人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
- ・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
- ・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
- ・乳癌悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。）
- ・乳癌悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
- ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
- ・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）
- ・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、脛腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
- ・経皮的冠動脈形成術
- ・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
- ・経皮的冠動脈ステント留置術
- ・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
- ・胸腔鏡下弁形成術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術）
- ・経皮的僧帽弁クリップ術
- ・不整脈手術 左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）、（経カテーテル的手術によるもの）
- ・経皮的中隔心筋焼灼術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
- ・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
- ・両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）

- ・植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術
- ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
- ・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- ・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
- ・補助人工心臓
- ・経皮的大動脈遮断術
- ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（後腹膜）
- ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
- ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
- ・ダメージコントロール手術
- ・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
- ・腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併設するもの）
- ・腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
- ・腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
- ・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
- ・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
- ・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
- ・体外衝撃波胆石破砕術
- ・腹腔鏡下肝切除術（部分切除及び外側区域切除）、（亜区域切除、1区域切除（外側区域切除を除く。）、2区域切除及び3区域切除以上のもの）
- ・体外衝撃波膵石破砕術（一連につき）
- ・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
- ・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
- ・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・内視鏡的小腸ポリープ切除術
- ・腹腔鏡下副腎摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出術（褐色細胞腫）（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
- ・腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
- ・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
- ・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪

- 性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
- ・腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 - ・生体腎移植術
 - ・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
 - ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術、腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 - ・人工尿道括約筋植込・置換術
 - ・膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）
 - ・精巣内精子採取術
 - ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
 - ・腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 - ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
 - ・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
 - ・胎児胸腔・羊水腔シャント術（一連につき）
 - ・体外式膜型人工肺管理料
 - ・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術
 - ・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
 - ・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）
 - ・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術）
 - ・輸血管管理料Ⅰ、輸血適正使用加算、貯血式自己血輸血管管理体加算
 - ・自己生体組織接着剤作成術
 - ・自己クリオプレシピテート作製術（用手法）及び同種クリオプレシピテート作製術
 - ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 - ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 - ・歯周組織再生誘導手術
 - ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
 - ・レーザー機器加算
 - ・麻酔管理料（Ⅰ）・（Ⅱ）
 - ・周術期薬剤管理加算
 - ・放射線治療専任加算
 - ・外来放射線治療加算
 - ・高エネルギー放射線治療
 - ・1回線量増加加算（全乳房照射・前立腺照射）
 - ・強度変調放射線治療（IMRT）
 - ・画像誘導放射線治療加算

- ・体外照射呼吸性移動対策加算
- ・定位放射線治療
- ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算（体外照射呼吸性移動対策加算・定位放射線治療・その他のもの）
- ・画像誘導密封小線源治療加算
- ・保険医療機関間の連携による病理診断
- ・病理診断管理加算 2
- ・悪性腫瘍病理組織標本加算
- ・口腔病理診断管理加算 2
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・なし	

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床各科とのカンファレンス、CancerBoard及び研修医向けCPCを概ね月1回開催	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	15
	剖検率(%)	2.02

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
別紙 6 参照				補	委
				補	委
				補	委
				補	委
				補	委
				補	委
				補	委
				補	委
				補	委
				補	委
				補	委

計 _____

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ナショナルセンター：バイオバンクネットワークを基盤とする疾患別情報統合データベースを活用した産学官連携による創薬開発研究	功刀浩	精神神経科学講座	¥13,000,000	補・委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
プロバイオティクスによる自律神経系機能への影響の検討	功刀浩	精神神経科学講座	¥20,221,200	補・委	ヤクルト本社(株)
食事・栄養療法による脳機能改善に関する研究	功刀浩	精神神経科学講座	¥8,000,000	補・委	一般財団法人糧食研究会
ヒトips細胞を用いた3次元脳関門チップの創製および臨床応用	功刀浩	精神神経科学講座	¥500,000	補・委	日本学術振興会
[1-13C]Trpと[1-13C]5-HTPの合成とうつ病の客観的診断法の開発	功刀浩	精神神経科学講座	¥312,000	補・委	日本学術振興会
うつ病のグリア抗うつ薬受容体(LPAI)を基盤とした創薬・バイオマーカー研究	功刀浩	精神神経科学講座	¥100,000	補・委	日本学術振興会
セルフモニタリングと援助希求に着目した、こころの健康教育プログラム作成と効果検証	金田渉	精神神経科学講座	¥3,640,000	補・委	日本学術振興会
精神疾患病態における神経ペプチドの役割に関する検討	秀瀬真輔	精神神経科学講座	¥260,000	補・委	日本学術振興会
がん患者に対する運動器至適包括管理の基盤確立を間座下臨床研究	緒方直史	リハビリテーション科学講座	¥4,030,000	補・委	科研費基盤C
がん患者に対する運動器至適包括管理の基盤確立を目指した臨床研究	緒方直史	リハビリテーション科学講座	¥1,170,000	補・委	文部科学省
1日使い捨てコンタクトレンズ表面への黄砂成分付着の検討	三村達哉	眼科学講座	¥2,000,000	補・委	日本Alcon 医師主導研究プログラム
大気中粒子による眼アレルギー疾患の疫学調査と実験的手法による原因究明と治療法開発	三村達哉	眼科学講座	¥5,330,000	補・委	科研費基盤B
吸引脂肪組織の酸素化による生着率の高い新規脂肪注入移植法の開発	堂後京子	形成口腔顎顔面外科学講座	¥4,290,000	補・委	日本学術振興会
in vivo遺伝子導入による軟骨再生医療への展開	山岡尚世	形成口腔顎顔面外科学講座	¥4,290,000	補・委	日本学術振興会
婦人科がん患者体液中クラスター細胞のプロファイリング作成と転移メカニズムの解明	長阪一憲	産婦人科学講座	¥1,430,000	補・委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
単一細胞解析による婦人科がん幹細胞ニッチの解明と新規治療法の開発 研究課題	長阪一憲	産婦人科学講座	¥4,420,000	補・委	科学研究費 文部科学省
マイクロ流体技術とシリコン集積回路技術の融合による細胞診の高度自動化	長阪一憲	産婦人科学講座	¥250,000	補・委	AMED補助事業
胎動に関する因子の研究	梁栄治	産婦人科学講座	¥2,730,000	補・委	科学研究費 文部科学省
胎動計で計測された胎児のgross movement と児の長期発達予後に関する研究	梁栄治	産婦人科学講座	¥1,000,000	補・委	関東連合産科婦人科学会
DDSとしてナノミセルを用いたHPV癌遺伝子を標的とした子宮頸癌治療薬開発	西田晴香	産婦人科学講座	¥0	補・委	文部科学省
全国調査による一側性聴覚障害者の実態把握及び診断・治療指針の作成に関する研究	伊藤健	耳鼻咽喉科学講座	¥400,000	補・委	AMED
加齢変化がアレルギー性鼻炎の病態生理に及ぼす影響の解明	吉原晋太郎	耳鼻咽喉科学講座	¥0	補・委	文部科学省
鼻過敏症の病態生理におけるTRPM8の役割についての解析	清水裕也	耳鼻咽喉科学講座	¥0	補・委	文部科学省
先天性腎尿路異常の新規診断法の開発：被曝と侵襲のない検査をめざして	高橋和浩	小児科学講座	¥1,350,000	補・委	R4-6文部省科学研究費
難治性神経芽腫に見出された新規ALK融合遺伝子の発がんメカニズム解析	樋渡光輝	小児科学講座	¥400,000	補・委	がんの子供を守る会
2020年度-2022年度、難治性小児白血病と神経芽腫に対する新規治療標的の同定と治療法の確立	樋渡光輝	小児科学講座	¥3,500,000	補・委	R2-4厚生労働科学研究費補助金（基盤C）
小児がんにおける遺伝学的高発がん感受性の機序とクローン進化の統合的解析	樋渡光輝	小児科学講座	¥650,000	補・委	厚生労働科学研究費補助金（基盤A）
多様なミトコンドリア病の遺伝子型/表現型/自然歴等をガイドラインに反映させていくエビデンス創出研究	三牧正和	小児科学講座	¥1,040,000	補・委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ミトコンドリア病、レット症候群の調査研究	三牧正和	小児科学講座	¥500,000	補・委	厚生労働科学研究費補助金
ミトコンドリア病新規治療法の開発：イノシンとフェブキソスタットによるATP増強	三牧正和	小児科学講座	¥1,000,000	補・委	文部省科学研究費助成事業
妊婦・授乳婦における医薬品の安全性に関する情報提供の在り方の研究	伊藤直樹	小児科学講座	¥120,000	補・委	厚生労働科学研究費補助金
トロンボモジュリンとアンチトロンビン併用による冠動脈内膜肥厚抑制効果の解析	内山雅照	心臓血管外科学講座	¥1,300,000	補・委	科学研究費（基盤研究C）

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
抗体関連型拒絶反応に対する抗BTLA抗体と抗PD-1抗体併用療法の確立	今水流智浩	心臓血管外科学講座	¥780,000	補・委 文部科学省
手指動作における時空間ダイナミクスの特徴抽出と臨床応用	小林俊輔	脳神経内科学講座	¥1,650,000	補・委 文部科学省
次世代遺伝子編集システムを用いたFCMDに対するスプライシングスイッチ療法の確立	斉藤史明	脳神経内科学講座	¥2,080,000	補・委 文部科学省
先進的ゲノム編集技術を用いた難治性神経筋疾患に対する治療戦略	斉藤史明	脳神経内科学講座	¥0	補・委 文部科学省
針筋電図を代替する表面筋電図を用いた非侵襲的な神経筋疾患の診断法に関する研究	神林隆道	脳神経内科学講座	¥1,040,000	補・委 文部科学省
筋萎縮性側索硬化症の早期確定診断に役立つ特異度の高いパラメータの探索	園生雅弘	脳神経内科学講座	¥700,000	補・委 文部科学省
神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	園生雅弘	脳神経内科学講座	¥400,000	補・委 厚生労働省
現在の脳死判定基準で脳死判定が困難な事例における脳死判定代替法の確立に向けた研究	園生雅弘	脳神経内科学講座	¥200,000	補・委 厚生労働省
筋萎縮性側索硬化症の早期診断における感度特異度の高い電気生理学的診断基準の作成	園生雅弘	脳神経内科学講座	¥0	補・委 文部科学省
悪性骨・軟部腫瘍の全ゲノム配列データおよび臨床情報等の収集と解析	河野博隆	整形外科科学講座	¥65,000	補・委 AMED
末梢組織血行の評価に特化したICG蛍光造影撮影解析装置の開発	御任大輔	整形外科科学講座	¥3,900,000	補・委 日本学術振興会
脳震盪に対する高気圧酸素治療の有効性	笹原潤	整形外科科学講座	¥4,030,000	補・委 日本学術振興会
MPIによる動作解析を用いたインソールの有効性と安全性に関する研究	宮本亘	整形外科科学講座	¥4,160,000	補・委 日本学術振興会
骨格筋損傷に対する筋機能評価と高気圧酸素圧酸素治療法の有効性	宮本亘	整形外科科学講座	¥3,200,000	補・委 日本学術振興会
いつでも、どこでも実施できる仮想空間を用いる整形外科手術トレーニング研修法の開発	宮本亘	整形外科科学講座	¥800,000	補・委 J&J Medical Research Grant
Virtual reality (VR) を用いた心肺蘇生法に対する新規学習法の基盤の確立	宮本亘	整形外科科学講座	¥300,000	補・委 先端研究推進助成金
トップアスリートの競技復帰を加速するための高気圧酸素治療指針の確立	安井洋一	整形外科科学講座	¥4,160,000	補・委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
MRSA骨感染症の克服を目指したテジゾリド最適化投与法の構築	渡部欣忍	整形外科科学講座	¥4,160,000	補・委	日本学術振興会
育成年代投手における投球数が肩甲骨位置と投球動作に与える影響の解明	中川匠	整形外科科学講座	¥3,200,000	補・委	日本学術振興会
高齢者の骨盤骨折の病態解明と低侵襲内固定手術法開発のための基礎研究	鈴木卓	整形外科科学講座	¥3,640,000	補・委	日本学術振興会
整形外科外傷包括的レジストリーシステム構築と臨床コホート応用の戦略的研究	乾貴博	整形外科科学講座	¥2,340,000	補・委	日本学術振興会
栄養による軟骨成長板幹細胞制御の解明	尾市健	整形外科科学講座	¥2,860,000	補・委	日本学術振興会
整形外科におけるエビデンス診療ギャップの検証とエビデンス翻訳に対する実証的研究	坂なつみ	整形外科科学講座	¥4,810,000	補・委	日本学術振興会
Virtual reality (VR) を用いた整形外科手術研修プラットフォームの構築	塚田圭輔	整形外科科学講座	¥200,000	補・委	科研製薬奨学寄付金
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	今西淳悟	整形外科科学講座	¥390,000	補・委	AMED
術者の“4次元思考”をサポートする人工知能搭載脳神経外科手術支援システムの開発	辛正廣	脳神経外科学講座	¥6,370,000	補・委	日本学術振興会科学研究費
スモールデータ駆動型機械学習による仮想頭蓋底手術シミュレーションシステムの開発	辛正廣	脳神経外科学講座	¥0	補・委	文部科学省
アイトラッキングによるカテーテル術者の目線解析と訓練に役立つ目線パターンの解明	庄島正明	脳神経外科学講座	¥1,170,000	補・委	文部科学省
ミスマッチ修復欠損神経膠腫細胞に対するTMZ抵抗性を克服する新治療の開発	樋口芙未	脳神経外科学講座	¥1,040,000	補・委	文部科学省
イムノグラムを用いた尿路上皮癌に対するオーダーメイド免疫治療戦略	川合剛人	泌尿器科学講座	¥800,000	補・委	日本学術振興会 科研費
膿疱性乾癬でのTARC産生細胞の同定と病態解明	多田弥生	皮膚科学講座	¥1,400,000	補・委	文科省科研費
乾癬モデルマウスにおける表皮resident memory T cellの解析	多田弥生	皮膚科学講座	¥1,040,000	補・委	文部科学省
アプスコパル効果のメカニズム解明ー腫瘍免疫に基づく画期的腫瘍治療戦略ー	白石憲史郎	放射線科学講座	¥3,200,000	補・委	文部科学省
難治性リンパ漏に対する胸管内リンパ液自動誘導システムの開発	山本真由	放射線科学講座	¥1,300,000	補・委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
低線量X線透視動画を用いた肺換気・血流イメージングシステムの開発	山本浩太郎	放射線科学講座	¥780,000	補・委	文部科学省
遠位橈骨動脈アプローチにおける腹腔動脈挿管に最適なカテーテル形状の探索と新規開発	和田武	放射線科学講座	¥2,860,000	補・委	文部科学省
「新型コロナウイルス感染症パンデミックの手術生産性変化に与える影響」	中田善規	麻酔科学講座	¥1,010,000	補・委	公益財団法人 ファイザーヘルスリサーチ振興財団 第30回
「コロナウイルス感染症パンデミックが医療生産性変化に与える影響に関する研究」	中田善規	麻酔科学講座	¥3,300,000	補・委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) (一般) 課題番号
術中心停止に対する迅速かつ安全な心肺蘇生法の確立: 実地シミュレーションによる検討	小西康貴	麻酔科学講座	¥0	補・委	文部科学省
水溶性・脂溶性に着目したスタチン系薬剤の細胞腫瘍毎での細胞障害作用の検討	張京浩	麻酔科学講座	¥0	補・委	文部科学省
循環動態シミュレーターによる経皮的僧帽弁クリップ術の効果予測	渡邊雄介	内科学講座	¥520,000	補・委	文部科学省
ペーチェット病に関する調査研究	菊地弘敏	内科学講座	¥200,000	補・委	厚生労働省
レジストリを活用したペーチェット病の予後不良病型発症予防のためのtreat-to-target開発	菊地弘敏	内科学講座	¥400,000	補・委	AMED
内部障害を有する難病患者のフレイル実態調査	菊地弘敏	内科学講座	¥200,000	補・委	日本学術振興会
ペーチェット病のゲノムワイド垂型解析によるエビデンス創出とレジストリー構築	菊地弘敏	内科学講座	¥50,000	補・委	日本学術振興会
ペーチェット病の病態解明および治療法開発を目的とした全国レジストリの構築	菊地弘敏	内科学講座	¥572,000	補・委	AMED
全身性エリテマトーデス発症と病態におけるNOX2複合体ゲノム多様性の意義	河野肇	内科学講座	¥100,000	補・委	日本学術振興会
ヒドロキシクロロキン新規作用機序から解明するSLEにおける自然炎症の関与	河野肇	内科学講座	¥1,300,000	補・委	日本学術振興会
難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究	河野肇	内科学講座	¥616,000	補・委	厚生労働省
炎症性疾患における尿酸の役割	河野肇	内科学講座	¥300,000	補・委	先端総合研究機構
Sykはどのような機序により膠原病・慢性炎症における動脈硬化に促進的に作用するか	津久井大輔	内科学講座	¥1,000,000	補・委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
動物モデルに基づく乾癬における尿酸の作用およびその分子メカニズムの解明	木村佳貴	内科学講座	¥1,200,000	補 ・ 委	日本学術振興会
HIV感染者におけるサルコペニアの成因とその機序の解明	若林義賢	内科学講座	¥400,000	補 ・ 委	日本学術振興会
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	吉野友祐	内科学講座	¥585,000	補 ・ 委	日本医療研究開発機構
気管支喘息での神経系-免疫系クロストークにおける好酸球の役割の解明 (課題番号: 21K08466)	長瀬洋之	内科学講座	¥1,560,000	補 ・ 委	文部科学省
小児から若年成人での生物学的製剤の適正使用に関するエビデンスの創出	長瀬洋之	内科学講座	¥1,000,000	補 ・ 委	厚生労働省
表現型別のぜん息増悪因子の同定と長期予後の解析	長瀬洋之	内科学講座	¥5,594,004	補 ・ 委	環境再生保全機構
サリドマイド胎芽症患者の健康、生活実態の把握及び支援基盤の構築	長瀬洋之	内科学講座	¥2,500,000	補 ・ 委	厚生労働省
本邦の実臨床における重症喘息および併存疾患に対するメボリズマブの有用性	長瀬洋之	内科学講座	¥77,108,105	補 ・ 委	グラクソ・スミスクライン 委託費
日本呼吸器学会 喘息研究支援プログラムB	小林このみ	内科学講座	¥738,614	補 ・ 委	日本呼吸器学会
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	田中篤	内科学講座	¥17,160,000	補 ・ 委	厚生労働省
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における医療水準並びに患者QOLの向上のための調査研究	田中篤	内科学講座	¥500,000	補 ・ 委	厚生労働省
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	田中篤	内科学講座	¥500,000	補 ・ 委	厚生労働省
小児期・移行期を含む包括的対応を要する希少難治性肝胆膵疾患の調査研究	田中篤	内科学講座	¥500,000	補 ・ 委	厚生労働省
翻訳後修飾による新規膜輸送体制御系を基軸とした腎疾患の基盤病態解明と応用の探求	田村好古	内科学講座	¥2,470,000	補 ・ 委	文部科学省
腎尿細管ナトリウム輸送体が及ぼす糖尿病と高血圧の相互増悪機序の解明	柴田茂	内科学講座	¥1,040,000	補 ・ 委	文部科学省
尿中DNAメチル化による腎臓病活動性の診断法の開発	柴田茂	内科学講座	¥330,000	補 ・ 委	AMED補助事業
エクソソームを利用した下垂体腺腫でのソマトスタチン受容体発現の評価システムの開発	盛田幸司	内科学講座	¥1,040,000	補 ・ 委	科学研究費助成事業 基盤研究C

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
地域の求める医師像をアウトカムとした地域医療とプライマリ・ケア教育の確立と検証	大久保由美子	内科学講座	¥2,990,000	補・委	科学研究費助成事業 基盤研究C
「よき医師」を育成するための入学者選抜方法と卒前教育の効果の検証	大久保由美子	内科学講座	¥266,000	補・委	科学研究費助成事業 基盤研究B
理系アカデミアのパワハラ・アカハラ尺度の開発	大久保由美子	内科学講座	¥3,900,000	補・委	厚生労働行政推進調査事業
Post-CC OSCE を国家試験化するにあたっての妥当性・信頼性・公平性等の検証に関する研究	大久保由美子	内科学講座	¥1,000,000	補・委	厚生労働省事業
エクソソームを用いた2型糖尿病の病態・治療効果予測に有用な新規マーカーの探索	江戸直樹	内科学講座	¥1,050,000	補・委	科学研究費助成事業 若手研究
脂質代謝そして糖代謝を同時に制御する新規蛋白PCSK7の総合的・網羅的機能解析	塚本和久	内科学講座	¥1,950,000	補・委	科学研究費助成事業 基盤研究C
原発性脂質異常症に関する調査研究	塚本和久	内科学講座	¥200,000	補・委	厚生労働科学研究費
臓器内代謝の時空間的制御に由来する臓器連携を介した個体恒常性維持機構の解明	宇野健司	内科学講座	¥5,590,000	補・委	科学研究費助成事業 基盤研究(B)
BCR-ABL1とFIP1L1-PDGFR α Tyrosine kinase inhibitor新規治療抵抗性遺伝子に関する基礎研究	白崎良輔	内科学講座	¥300,000	補・委	一般社団法人日本血液学会
リンパ性悪性腫瘍におけるdexamethasone投与の意義についての研究	白崎良輔	内科学講座	¥0	補・委	文部科学省
急性骨髄性白血病に対するCLL-1特異的キメラ抗原受容体T細胞療法の改良	田代晴子	内科学講座	¥1,300,000	補・委	日本学術振興会
がん検診における'Shared Decision Making'推進と利益不利益バランスに基づく受診意思決定支援ツール開発のための研究	渡邊清高	内科学講座	¥500,000	補・委	厚生労働省
がん診療連携拠点病院等の施設間の支持療法の均てん化の実現に資する研究	渡邊清高	内科学講座	¥500,000	補・委	厚生労働省
検診ガイドライン作成と検診の効率的運用方法の体制に関する研究	渡邊清高	内科学講座	¥100,000	補・委	がん研究開発費
LED光源方式光音響イメージング技術を用いた画像検査装置に関する開発・事業化	横山直之	内科学講座	¥660,000	補・委	AMED補助事業
ゲノミクスを用いた感染性心内膜炎の新規診断法の検討	片岡明久	内科学講座	¥0	補・委	文部科学省
肺線維化におけるIL-9の機能の解明	杉本直也	内科学講座	¥0	補・委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究	有賀悦子	緩和医療学講座	¥10,010,000	補・委	厚生労働省
5-アミノレブリン酸を用いた肺悪性腫瘍検出システムの最適化	山内良兼	外科学講座	¥600,000	補・委	文部科学省
革新的新規デバイスによる肺癌患者の血液中循環腫瘍細胞の同定	坂尾幸則	外科学講座	¥700,000	補・委	文部科学省
自立再生軟骨による気管支断端の創傷治癒システムの開発	横手芙美	外科学講座	¥713,048	補・委	文部科学省
メタボローム解析を用いた cdk 4/6阻害剤の効果予測法の確立	神野浩光	外科学講座	¥1,560,000	補・委	文部科学省
メタボローム解析を用いた乳癌化学療法の効果予測法の確立	神野浩光	外科学講座	¥0	補・委	文部科学省
学会連携を通じた希少癌の適切な医療の質向上と次世代を担う希少がん領域の人材育成に資する研究	橋口陽二郎	外科学講座	¥300,000	補・委	厚生労働省
大腸癌の腸内細菌叢メタゲノム解析とリキットバイオプシーによる癌個別化診断	橋口陽二郎	外科学講座	¥0	補・委	文部科学省
切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対照試験	佐野圭二	外科学講座	¥390,000	補・委	AMED
独自に発見した全く新しいphenotypeのNK様細胞を用いた養子免疫技術の実用化開発:第I相医師主導治験	深川剛生	外科学講座	¥1,300,000	補・委	AMED補助事業
リピドミクスを用いた大腸癌早期診断および脂質パネル検査の開発	端山軍	外科学講座	¥1,300,000	補・委	文部科学省
体外診断用医薬品に係る安全対策のあり方に関する研究	古川泰司	臨床検査医学講座	¥1,300,000	補・委	厚生労働省
子宮体癌/子宮内膜異型増殖症に対する妊孕性温存治療後の子宮内再発に対する反復高用量黄体ホルモン療法に関する第II相試験	笹島ゆう子	病院病理部	¥65,000	補・委	AMED
胆道癌浸潤病巣における線維性間質の病態と、抗線維化治療への展開	羽賀敏博	病院病理部	¥0	補・委	文部科学省
市民によるAED等の一時救命処置のさらなる普及と検証体制構築の促進及び二次救命処置の適切な普及に向けた研究	坂本哲也	救急医学講座	¥5,499,000	補・委	厚生労働省
救急救命士が行う業務の質の向上に資する研究	坂本哲也	救急医学講座	¥3,509,000	補・委	厚生労働省
循環器救急疾患に対する救急医療現場の連携推進のための課題抽出と専門医間の連携構築を目指したガイドブックの作成	坂本哲也	救急医学講座	¥200,000	補・委	厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
地域医療構想を踏まえた救急医療体制の充実に 関する研究	坂本哲也	救急医学講 座	¥180,000	補 ・ 委	厚生労働省
『新しい生活様式』に即した熱中症予防対策の評価 及び推進のための研究	神田潤	救急医学講 座	¥6,000,000	補 ・ 委	厚生労働省
エビデンスに基づく熱中症の診療指針の確立に向 けての疫学調査と分析	神田潤	救急医学講 座	¥1,040,000	補 ・ 委	文部科学省
脳死下・心停止後の臓器・組織提供における効率 的な連携体制の構築に資する研究	三宅康史	救急医学講 座	¥1,300,000	補 ・ 委	厚生労働省
大規模災害時における地域連携を踏まえた更なる 災害医療提供体制強化に関する研究	森村尚登	救急医学講 座	¥500,000	補 ・ 委	厚生労働省
大規模イベントの公衆衛生・医療に関するリスクア セスメント及び対応の標準課に向けた研究	森村尚登	救急医学講 座	¥2,500,000	補 ・ 委	厚生労働省
ドネベジルのドラッグリポジショニングによる COVID-19後遺症治療薬の開発-精神症状治療薬 へのリポジショニング-	中村謙介	救急医学講 座	¥348,129,080	補 ・ 委	AMED
TITINを軸とした重症病態における筋力低下に関連 する筋実質障害の解析	中村謙介	救急医学講 座	¥5,440,000	補 ・ 委	文部科学省
患者個別バーチャルリアリティと拡張現実を複合し た腹部外傷外科シミュレーター構築	伊藤香	救急医学講 座	¥0	補 ・ 委	文部科学省
平時と災害時に同一運用が可能な小児傷病者診 療ウェブシステムの開発	問田千晶	救急医学講 座	¥130,000	補 ・ 委	文部科学省

計144件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1		別紙 7 参照			Original Article
2					Case report
3					Review
4					Letter
5					Others
6					
～					
70					
～					

計 件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

論文発表等の実績

高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Shinoda, Kei ; Matsumoto, Soiti C. ; Yagura, Kazuma et al.	眼科学講座	Intraocular Temperature Distribution in Eyes Undergoing Different Types of Surgical Procedures during Vitreous Surgery	Journal of Clinical Medicine.2022 Apr;11(7)	Original Article
2	Mimura, Tatsuya	眼科学講座	Allergic conjunctivitis in contact lens wearers: challenges and management recommendations	Expert Review of Ophthalmology.2022 Apr;17(2):123-128	Review
3	Mimura, Tatsuya ; Noma, Hidetaka ; Inoue, Yuji et al.	眼科学講座	Early Postoperative Effect of Ripasudil Hydrochloride After Trabeculectomy on Secondary Glaucoma: A Randomized Controlled Trial	Open Ophthalmology Journal.2022 Aug;16	Original Article
4	Mimura, Tatsuya ; Fujishima, Hiroshi ; Uchio, Eichi et al.	眼科学講座	Adhesion of Asian Dust Particles to Verofilcon a Soft Contact Lenses	Clinical Optometry.2022 Oct;14:215-221	Original Article
5	Terauchi, Gaku ; Shinoda, Kei ; Yagura, Kazuma et al.	眼科学講座	Electroretinographic Assessments of Macular Function after Brilliant Blue G Staining for Inner Limiting Membrane Peeling	Journal of Clinical Medicine.2022 Nov;11(21)	Original Article
6	Ito, Masaaki ; Mimura, Tatsuya ; Noma, Hidetaka et al.	眼科学講座	Volatile Organic Compounds in Patients' Breath during Conversation	Open Ophthalmology Journal.2023 Mar;17	Original Article
7	Takagi, Yusuke ; Ota, Shuji ; Yomota, Makiko et al.	緩和医療学講座	Opioid-induced nausea and vomiting: A dexamethasone multicentre prospective study	BMJ Supportive and Palliative Care.2022 Apr	Letter
8	Ito, Kaori ; Uemura, Takeshi ; Yuasa, Misuzu et al.	救急医学講座	The Feasibility of Virtual VitalTalk Workshops in Japanese: Can Faculty Members in the US Effectively Teach Communication Skills Virtually to Learners in Japan?	American Journal of Hospice and Palliative Medicine.2022 Jul;39(7):785-790	Original Article
9	Ito, Kaori ; George, Naomi ; Wilson, Jennifer et al.	救急医学講座	Primary palliative care recommendations for critical care clinicians	Journal of Intensive Care.2022 Dec;10(1)	Review
10	Nagao, Tsuyoshi ; Nakahara, Shinji ; Fujita, Takashi et al.	救急医学講座	Benefits of international trauma rotation in South Africa: Comparison with a trauma center in Tokyo	Emergency and Critical Care Medicine.2022 Dec;2(4):179-180	Original Article
11	Toida, Chiaki ; Muguruma, Takashi ; Gakumazawa, Masayasu et al.	救急医学講座	Evaluating the definition of severely injured patients: a Japanese nationwide 5-year retrospective study	BMJ Open.2023 Feb;13(2)	Original Article
12	Fujita, Muneyoshi ; Miyamoto, Hideaki ; Kurozumi, Taketo	救急医学講座	Early-stage reconstruction of flexor pollicis longus using palmaris longus in a patient with compartment syndrome of forearm: a case report	Journal of Medical Case Reports.2022 Dec;16(1)	Original Article
13	Yamaoka, Hisayo ; Yamaoka, Keiko ; Watanabe, Shigekazu et al.	形成・口腔顎顔面外科学講座	Lactose Stabilization Prolongs In Vivo Retention of Cross-linked Fish Collagen Subcutaneous Grafts in Nude Mice	Plastic and Reconstructive Surgery - Global Open.2022 Oct;10(10):E4601	Original Article
14	Yokote, Fumi ; Yamauchi, Yoshikane ; Komura, Hiroko et al.	外科学講座	A novel method of tracheal anastomosis healing using a single submucosal injection of basic fibroblast growth factor: initial report	European Journal of Cardio-thoracic Surgery.2022 Apr;61(4):917-924	Original Article
15	Yamauchi, Yoshikane	外科学講座	Will the ultra-low-dose intraoperative X-ray imager change thoracoscopic surgery?	Translational Lung Cancer Research.2022 Apr;11(4):506-508	Review
16	Hosoda, Toshifumi ; Hijikata, Kohei ; Ishioka, Shigeki	外科学講座	Rare case of inguinal ureteral hernia in a child diagnosed by drip infusion pyelography-computed tomography	International Journal of Surgery Case Reports.2022 May;94	Original Article
17	Yamada, Miki ; Jinno, Hiromitsu ; Naruse, Saki et al.	外科学講座	Large Nipple Volume as a Risk Factor of Nipple-areola Complex Necrosis Following Nipple-sparing Mastectomy	World Journal of Surgery.2022 May;46(5):1116-1121	Original Article
18	Tsukayama, Hiroyuki ; Misawa, Takeyuki ; Watanabe, Makoto et al.	外科学講座	Single-incision laparoscopic enucleation for pancreatic insulinoma with preoperative nasopancreatic stent placement: A case report	International Journal of Surgery Case Reports.2022 May;94	Original Article
19	Saito, Yuichi ; Matsui, Atsuka ; Michiyuki, Satoru et al.	外科学講座	Loop-Mediated Isothermal Amplification as Point-of-Care Testing for EGFR-Mutated Lung Adenocarcinoma	Micromachines.2022 Jun;13(6)	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
20	Saito, Yuichi ; Watanabe, Tomohiro ; Kanamoto, Yasuyuki et al.	外科学講座	A pilot study of intraoperative localization of peripheral small pulmonary tumors by cone-beam computed tomography: sandwich marking technique	Journal of Thoracic Disease.2022 Aug;14(8):2845-2854	Original Article
21	Yamada, Miki ; Jinno, Hiromitsu ; Maeda, Yuka et al.	外科学講座	Management of Crohn's disease relapse during neoadjuvant chemotherapy for bilateral breast cancer: a case report	Oxford Medical Case Reports.2022 Sep;2022(9):303-305	Original Article
22	Yamauchi, Yoshikane ; Kawamura, Masafumi ; Okami, Jiro et al.	外科学講座	Hazard Function Analysis of Recurrence in Patients with Curatively Resected Lung Cancer: Results from the Japanese Lung Cancer Registry in 2010	Cancers.2022 Oct;14(20)	Original Article
23	Hayama, Tamuro ; Hashiguchi, Yojiro ; Ozawa, Tsuyoshi et al.	外科学講座	The preoperative geriatric nutritional risk index (GNRI) is an independent prognostic factor in elderly patients underwent curative resection for colorectal cancer	Scientific Reports.2022 Dec;12(1)	Original Article
24	Asami, Momoko ; Kanai, Eiichi ; Yamauchi, Yoshikane et al.	外科学講座	Positive Intrapleural Pressure with Carbon Dioxide May Limit Intraoperative Pulmonary Arterial Bleeding: Verification by Animal Model	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery.2022 Dec;28(6):403-410	Original Article
25	Yamauchi, Yoshikane ; Nakajima, Jun ; Mun, Mingyon et al.	外科学講座	Survival after Lung Metastasectomy from Esophageal Cancer: Results from a Multi-Institutional Database	Cancers.2023 Mar;15(5)	Original Article
26	Yuichi Saito	外科学講座	Recent advances in electromagnetic navigation bronchoscopy for localization of peripheral pulmonary nodules	J Thorac Dis.2022 Apr;14(4):802-804	Others
27	Yuichi Saito, Shinya Komaru, et al.	外科学講座	Video-assisted thoracoscopic surgery for a pediatric patient with descending necrotizing mediastinitis	Translational Pediatrics.2022 Sep;11(9):1435-1437	Others
28	Yoshikane Yamauchi, Tomohiro Watanabe	外科学講座	Profiles of intraoperative complications in robot-assisted anatomical pulmonary resection for lung cancer	J Thorac Dis.2022 Dec;14(12):4598-460	Others
29	Yamada M, Jinno H, Naruse S, et al	外科学講座	Management of Crohn's disease relapse during neoadjuvant chemotherapy for bilateral breast cancer	Oxf Med Case Reports.2022 Sep 26;2022(9):omac095	Case report
30	Kiyokawa, Takashi ; Fukagawa, Takeo ; Kaneshiro, Shinya et al.	外科学講座	Accuracy of preoperative staging of gastric stump cancer	Japanese Journal of Clinical Oncology.2022 Jun;52(6):571-574	Original Article
31	Honda, Taku ; Abe, Koichiro ; Oda, Minoru et al.	外科学講座	Gastrointestinal Bleeding During Direct Oral Anticoagulant Therapy in Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation and Risk of Polypharmacy	Journal of Clinical Pharmacology.2022 Dec;62(12):1548-1556	Original Article
32	Nishida, Haruka ; Takahashi, Yuko ; Takehara, Kohei et al.	産婦人科学講座	Chlamydia Peritonitis Mimicking Juvenile Carcinomatous Peritonitis Diagnosed by Exploratory Laparoscopy: A Case Report	Pathogens.2023 Jan;12(1)	Original Article
33	Matsuura, Yuki ; Nishida, Haruka ; Kosaka, Takashi et al.	産婦人科学講座	Case report: Posterior reversible encephalopathy syndrome, an adverse effect of lenvatinib and pembrolizumab combination therapy, in a patient with advanced endometrial cancer	Frontiers in Oncology.2023 Jan;12	Original Article
34	Ryo E, Yatsuki K, Kamata H, et al.	産婦人科学講座	Counting gross fetal movement using a fetal movement acceleration measurement recorder in two fetuses with gastroschisis	Clin Case Rep. 2022 Aug 18;10(8):e6264	Case report
35	Takasaki K, Henmi H, Ikeda U, et al.	産婦人科学講座	Intrauterine adhesion after hysteroscopic myomectomy of submucous myomas	J Obstet Gynaecol Res. 2023 Feb;49(2):675-681	Case report
36	Kagoya, Ryoji ; Iwanami, Tomoko ; Mochizuki, Makoto et al.	耳鼻咽喉科学講座	Case report: Unilateral transnasal endoscopic marsupialization of nasopalatine duct cyst	Frontiers in Surgery.2022 Aug;9	Original Article
37	Kagoya, Ryoji ; Toma-Hirano, Makiko ; Yamagishi, Junya et al.	耳鼻咽喉科学講座	Immunological status of the olfactory bulb in a murine model of Toll-like receptor 3-mediated upper respiratory tract inflammation	Journal of Neuroinflammation.2022 Dec;19(1)	Original Article
38	Koike-Ieki, Mariko ; Kagoya, Ryoji ; Toma-Hirano, Makiko et al.	耳鼻咽喉科学講座	Improvement of eosinophilic chronic rhinosinusitis after infection with severe acute respiratory syndrome corona virus 2 during dupilumab therapy: A case report	Frontiers in Allergy.2023 Feb;4	Original Article
39	Ogawa G, Kagoya R, Mochiki M, Ito K	耳鼻咽喉科学講座	A case of mumps presenting with unilateral submandibular sialadenitis and laryngeal edema	Cureus.2022 Sep 18;14(9):e29290	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
40	Nishino, Tomohiko ; Takahashi, Kazuhiro ; Ono, Sayaka et al.	小児科学講座	Fluctuation of R2* values in blood oxygenation level-dependent MRI during acute and remission phases of IgA vasculitis with nephritis in children	Japanese Journal of Radiology.2022 Aug;40(8):840-846	Original Article
41	Nishino, Tomohiko ; Takahashi, Kazuhiro ; Tomori, Shinya et al.	小児科学講座	Association of human leukocyte antigen with IgA vasculitis with nephritis in Japanese children	Pediatrics International.2023 Jan;65(1)	Others
42	Enkai, Shigehiro ; Kouguchi, Hirokazu ; Inaoka, Daniel Ken et al.	小児科学講座	Killing Two Birds with One Stone: Discovery of Dual Inhibitors of Oxygen and Fumarate Respiration in Zoonotic Parasite, Echinococcus multilocularis	Antimicrobial Agents and Chemotherapy.2023 Mar;67(3)	Original Article
43	Mitsuteru Hiwatari, Masafumi Seki, Ryosuke Matsuno, et al.	小児科学講座	Novel TENM3-ALK fusion is an alternate mechanism for ALK activation in neuroblastoma	Oncogene 2022 May;41(20):2789-2797	Original Article
44	Tomohiko Nishino, Kazuhiro Takahashi, Sayaka Ono, et al.	小児科学講座	Pathological Factors Affecting the R2* Values of the Kidney in Blood Oxygenation Level-dependent MR Imaging: A Retrospective Study	Magnetic resonance in medical sciences 2023 Feb 7	Original Article
45	Fujii, Yuki ; Murata, Yuki ; Hokkoku, Keiichi et al.	神経内科学講座	Anti-amphiphysin-positive progressive encephalomyelitis with rigidity and myoclonus	Canadian Journal of Neurological Sciences.2022 Sep	Letter
46	Matsukura, Kiyoshi ; Hokkoku, Keiichi ; Mukai, Taiji et al.	神経内科学講座	Tibial nerve SEPs in diagnosing lumbar spinal stenosis: The utility of segmental evaluation using P15 and N21	Clinical Neurophysiology Practice.2023 Jan;8;49-57	Original Article
47	Wada, Arena ; Uchida, Yudai ; Hokkoku, Keiichi et al.	神経内科学講座	Utility of nerve ultrasound in the management of primary neurolymphomatosis: Case report and review of the literature	Clinical Neurophysiology Practice.2023 Jan;8;92-96	Original Article
48	Kanbayashi, Takamichi ; Ogawa, Go ; Ito, Tatsuya et al.	神経内科学講座	Utility of the tibial nerve somatosensory evoked potentials in differentiating between neuromyelitis optica spectrum disorders and multiple sclerosis	Multiple Sclerosis and Related Disorders.2023 Feb;70	Original Article
49	Uehara, Hiroo ; Uchiyama, Masateru ; Hori, Takayuki et al.	心臓血管外科学講座	Surgical treatment of papillary fibroelastoma of the pulmonary valve: a case report	Journal of Cardiothoracic Surgery.2022 Dec;17(1)	Original Article
50	Saka, Natsumi ; Watanabe, Yoshinobu	整形外科科学講座	Letter regarding 'classification of non-union: Need for a new scoring system?'	Injury.2022 Jul;53(7):2694	Letter
51	Kawano, Hiroataka ; Hirahata, Masahiro ; Imanishi, Jungo	整形外科科学講座	Locomotive syndrome in cancer patients: a new role of orthopaedic surgeons as a part of comprehensive cancer care	International Journal of Clinical Oncology.2022 Aug;27(8):1233-1237	Review
52	Hirahata, Masahiro ; Kitagawa, Tomoaki ; Yasui, Youichi et al.	整形外科科学講座	Vacuum phenomenon as a predictor of kyphosis after implant removal following posterior pedicle screw fixation without fusion for thoracolumbar burst fracture: a single-center retrospective study	BMC Musculoskeletal Disorders.2022 Dec;23(1)	Original Article
53	Toyooka, Seikai ; Tsukada, Keisuke ; Yasui, Youich et al.	整形外科科学講座	Association of medial arch support of foot orthoses with knee valgus angle at initial contact during cutting maneuvers in female athletes: a controlled laboratory study	BMC Sports Science, Medicine and Rehabilitation.2022 Dec;14(1)	Original Article
54	Masahiro Hirahata, Youichi Yasui, Muneyoshi Fujita, et al.	整形外科科学講座	Overweight increases perioperative spinal surgery complications: a single-center retrospective study	BMC Musculoskeletal Disorders, 2023 Feb 6;24(1):98	Original Article
55	Sato K., Imanishi J., Kawano H.	整形外科科学講座	Orthopaedic Management of Bone Metastasis	Cancer & Chemotherapy 2023 Mar;50(3):287-293	Original Article
56	Toyooka S., et al	整形外科科学講座	Return to Pivoting Sports after Cartilage Repair Surgery of the Knee: A Scoping Review	Cartilage.2023 Mar;14(1):17-25	Review
57	Toyooka S., Masuda H., Nishihara N, et al	整形外科科学講座	Assessing the Role of Minimal Medial Tissue Release during Navigation-Assisted Varus Total Knee Arthroplasty Based on the Degree of Preoperative Varus Deformity	J Knee Surg 2022 Sep;35(11):1236-1241	Original Article
58	Nakagawa T.,Inui T.,Matsui K. et al.	整形外科科学講座	Effect of postoperative fracture gap on bone union: A retrospective cohort analysis of simple femoral shaft fractures	J Orthop Sci,Online ahead of print. 2023 Mar 11;S0949-2658(23)00057-X	Original Article
59	Muneyoshi Fujita, Takahiro Inui,Yasushi Oshima, et al.	整形外科科学講座	Comparison of the Outcomes of Microendoscopic Discectomy Versus Full-Endoscopic Discectomy for the Treatment of L4/5 Lumbar Disc Herniation	Global Spine Journal,2022 Sep 22;21925682221127997	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
60	Ueno M, Kobayashi S, Asakawa S, et al.	整形外科科学講座	Emergence of proteinase 3-antineutrophil cytoplasmic antibody-associated glomerulonephritis with mesangial immune deposition during the clinical course of IgG λ monoclonal gammopathy of uncertain significance	CEN Case Rep.2022 Nov;11(4):463-470	Case report
61	Nishihara N., Masuda H., Shimazaki N. et al	整形外科科学講座	Correction of Varus Alignment with Peripheral Osteophyte Removal during Total Knee Arthroplasty: An Assessment with Computer Navigation	J Knee Surg.2023 Feb;36(3):292-297	Original Article
62	Saka N., Watanabe Y., et al	整形外科科学講座	Trend of female first authorship in Journal of Orthopaedic Science, the official journal of the Japanese orthopaedic association from 2001 to 2021: An observational study	J Orthop Sci,2023 Mar 22;S0949-2658(23)00077-5	Original Article
63	Ikuta K., Miyamoto H., Sasaki G.et. al	整形外科科学講座	Irreducible anteromedial radial head dislocation in a child caused by interposing brachialis tendons: a case report	JSES Reviews Reports & Techniques,2022 May 2(2);243 - 245	Original Article
64	Hidaka R.,Matsuda K.,Nakamura M. et al.	整形外科科学講座	Optimal combined anteversion range for obtaining a wider range of motion without prosthetic impingement after total hip arthroplasty: a three-dimensional analysis study	Orthop Surg Res.2022 Apr 10;17(1):226	Original Article
65	Nakayama Y, Suzuki T,Kurozumi T, et al.	整形外科科学講座	Progression to Rommens type IIIa fragility fracture of the pelvis managed by delayed open reduction and interdigitating screw fixation: a case report	Trauma Case Rep,2023 Jan 13;43:100773	Case report
66	Hidese, Shinsuke ; Yoshida, Fuyuko ; Ishida, Ikki et al.	精神神経学講座	Plasma neuropeptide levels in patients with schizophrenia, bipolar disorder, or major depressive disorder and healthy controls: A multiplex immunoassay study	Neuropsychopharmacology Reports.2023 Mar;43(1):57-68	Original Article
67	Watanabe, Yukako ; Kanata, Sho ; Suga, Motomu et al.	精神神経学講座	Characteristic association of symbol coding test score with occupational function in Japanese patients with schizophrenia	Neuropsychopharmacology Reports.2023 Mar;43(1):141-145	Original Article
68	Hidese S, Ota M, Matsuo J, et al.	精神神経学講座	Association of body mass index and its classifications with gray matter volume in individuals with a wide range of body mass index group: A whole-brain magnetic resonance imaging study	Front Hum Neurosci. 2022 Sep 8;16:926804	Original Article
69	Matsuo, Takuji ; Tashiro, Haruko ; Shirasaki, Ryosuke et al.	内科学講座	Serum high-density lipoprotein cholesterol level has a significant prognostic impact on outcomes of follicular lymphoma patients	Medicine (United States).2022 Jul;101(30):E29541	Original Article
70	Matsumoto, Kensuke ; Matsuyama, Taisuke ; Sumiyoshi, Ritsu et al.	内科学講座	Type 1 diabetes mellitus after cord blood transplantation from an unrelated donor with a disease-sensitive haplotype	Journal of Diabetes Investigation.2023 Feb;14(2):344-347	Original Article
71	Arai, Shoya ; Osawa, Takeshi ; Matsuo, Takuji et al.	内科学講座	Detection of Candida albicans in the peripheral blood smear of a diffuse large B cell lymphoma patient	International Journal of Hematology.2023 Mar;117(3):309-310	Letter
72	Nagase, Hiroyuki ; Tamaoki, Jun ; Suzuki, Takeo et al.	内科学講座	Reduction in asthma exacerbation rate after mepolizumab treatment initiation in patients with severe asthma: A real-world database study in Japan	Pulmonary Pharmacology and Therapeutics.2022 Aug;75	Original Article
73	Nagase, Hiroyuki ; Suzukawa, Maho ; Oishi, Keiji et al.	内科学講座	Biologics for severe asthma: The real-world evidence, effectiveness of switching, and prediction factors for the efficacy	Allergy International.2023 Jan;72(1):11-23	Review
74	Tanzawa, Shigeru ; Makiguchi, Tomonori ; Tasaka, Sadatomo et al.	内科学講座	Prospective analysis of factors precluding the initiation of durvalumab from an interim analysis of a phase II trial of S-1 and cisplatin with concurrent thoracic radiotherapy followed by durvalumab for unresectable, locally advanced non-small cell lung cancer in Japan (SAMURAI study)	Therapeutic Advances in Medical Oncology.2022 Jul;14	Original Article
75	Shibata, Shigeru	内科学講座	Thermoreceptor TRPV1 regulates body weight and blood pressure in the absence of thermogenin	Hypertension Research.2022 May;45(5):917-919	Others
76	Yasukawa, Minoru ; Arai, Shigeyuki ; Nagura, Michito et al.	内科学講座	Selenium Associates With Response to Erythropoiesis-Stimulating Agents in Hemodialysis Patients	Kidney International Reports.2022 Jul;7(7):1565-1574	Original Article
77	Yamazaki, Osamu ; Shibata, Shigeru	内科学講座	Severe COVID-19 and preexisting hypertension: a matter of age?	Hypertension Research.2022 Sep;45(9):1523-1525	Others
78	Shibata, Shigeru ; Kobayashi, Kazuo ; Tanaka, Masami et al.	内科学講座	COVID-19 pandemic and hypertension: an updated report from the Japanese Society of Hypertension project team on COVID-19	Hypertension Research.2023 Mar;46(3):589-600	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
79	Akiyama, Nobu ; Okamura, Takuho ; Yoshida, Minoru et al.	内科学講座	Difference of compliance rates for the recommendations in Japanese Guideline on Febrile Neutropenia according to respondents' attributes: the second report on a questionnaire survey among hematology-oncology physicians and surgeons	Supportive Care in Cancer.2022 May;30(5):4327-4336	Original Article
80	Asakawa, Shinichiro ; Arai, Shigeyuki ; Kawagoe, Mika et al.	内科学講座	A Young Patient with Microscopic Polyangiitis Requiring Hemodialysis with Complications of Repeated Episodes of Posterior Reversible Encephalopathy Syndrome Probably Due to Different Etiologies	Internal Medicine.2022 May;61(9):1423-1431	Original Article
81	Wakabayashi, Yoshitaka ; Nakayama, Shin ; Yamamoto, Ai et al.	内科学講座	First case of necrotizing fasciitis and bacteremia caused by Bifidobacterium breve	Anaerobe.2022 Aug;76	Original Article
82	Tomomitsu, Yoshihiro ; Asakawa, Shinichiro ; Arai, Shigeyuki et al.	内科学講座	A Patient with Acute Kidney Injury Associated with Massive Proteinuria and Acute Hyperuricemia after Epileptic Seizures	Internal Medicine.2022 Nov;61(22):3401-3408	Original Article
83	Wakabayashi, Yoshitaka ; Nakayama, Shin ; Yamamoto, Ai et al.	内科学講座	High D-glucose levels induce ACE2 expression via GLUT1 in human airway epithelial cell line Calu-3	BMC Molecular and Cell Biology.2022 Dec;23(1)	Original Article
84	Ito, Chiaki ; Odajima, Kohei ; Niimura, Yoshiko et al.	内科学講座	IgA vasculitis with transient glomerular hematuria, diarrhea, and pericarditis following COVID-19 mRNA vaccination in a young patient with possible pre-existing ulcerative colitis	GEN case reports.2023 Feb;12(1):84-90	Original Article
85	Matsuo T, Tashiro H, Shirasaki R, et al.	内科学講座	Serum high-density lipoprotein cholesterol level has a significant prognostic impact on outcomes of follicular lymphoma patients	Medicine (Baltimore). 2022 Jul 29;101(30):e2954	Original Article
86	Matsumoto K, Matsuyama T, Sumiyoshi R, et al.	内科学講座	Type 1 diabetes mellitus after cord blood transplantation from an unrelated donor with a disease-sensitive haplotype	J Diabetes Investig. 2023 Feb;14(2):344-347	Case report
87	Arai S, Osawa T, Matsuo T, et al.	内科学講座	Detection of Candida albicans in the peripheral blood smear of a diffuse large B cell lymphoma patient.	Int J Hematol.2023 Mar;117(3):309-310	Case report
88	Arizumi T, Tazuma S, Isayama H, et al.	内科学講座	Ursodeoxycholic acid is associated with improved long-term outcome in patients with primary sclerosing cholangitis	Journal of Gastroenterology.2022Nov;57(11):902-912	Original Article
89	Honda T, Abe K, Oda M, et al.	内科学講座	Gastrointestinal bleeding during direct oral anticoagulants therapy in patients with nonvalvular atrial fibrillation and risk of polypharmacy	J Clin Pharmacol.2022Dec;62(12):1548-1556	Original Article
90	Nagase H	内科学講座	Rapid progress in molecular targeted therapy for allergic diseases	Allergology International,2023 Jan;72(1):1-2	Review
91	Amano H, Yamamoto T, Ikusaka K, et al.	内科学講座	Clinical Factors Associated with Severity of Colonic Diverticular Bleeding and Impact of Bleeding Site	J Clin Med. 2023 Feb 24;12(5):1826	Original Article
92	Kozuma, Ken ; Chikamori, Taishiro ; Hashimoto, Jun et al.	内科学講座(循環器)	JCS 2021 Guideline on Radiation Safety in Cardiology	Circulation Journal.2022 Jun;86(7):1148-1203	Original Article
93	Hioki, Hirofumi ; Watanabe, Yusuke ; Kawashima, Hideyuki et al.	内科学講座(循環器)	Serial CT Images of Annulus Rupture Treated by Conservative Strategy After Transcatheter Aortic Valve Replacement	JACC: Cardiovascular Interventions.2022 Aug;15(15):e179-e180	Original Article
94	Watanabe, Yusuke ; Hayashida, Kentaro ; Yamamoto, Masanori et al.	内科学講座(循環器)	Edoxaban vs. Vitamin K Antagonist for Atrial Fibrillation After Transcatheter Aortic Valve Replacement in Japanese Patients — A Subanalysis of the ENVISAGE-TAVI AF Trial —	Circulation Journal.2022 Oct;86(11):1756-1763	Original Article
95	Hioki, Hirofumi ; Watanabe, Yusuke ; Kozuma, Ken et al.	内科学講座(循環器)	Validation of reliability and predictivity of membrane septum length measurements for pacemaker need after transcatheter aortic valve replacement	Catheterization and Cardiovascular Interventions.2022 Nov;100(5):868-876	Original Article
96	Kataoka, Akihisa ; Watanabe, Yusuke	内科学講座(循環器)	MitraClip: a review of its current status and future perspectives	Cardiovascular Intervention and Therapeutics.2023 Jan;38(1):28-38	Review
97	Watanabe, Yusuke ; Fujita, Tsutomu ; Doi, Hirosato et al.	内科学講座(循環器)	Prospective multicenter registry of hybrid coronary artery revascularization combined with non-saphenous vein graft surgical bypass and percutaneous coronary intervention using everolimus eluting metallic stents (PRIDE-METAL study)	Cardiovascular Intervention and Therapeutics.2022 Apr;37(2):304-311	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
98	Watanabe Y, Hayashida K, Yamamoto M, et al	内科学講座(循環器)	Edoxaban vs. Vitamin K Antagonist for Atrial Fibrillation After Transcatheter Aortic Valve Replacement in Japanese Patients – A Subanalysis of the ENVISAGE-TAVI AF Trial	Circ J. 2022 Oct; 86: 1756–63	Original Article
99	Hioki H, Watanabe Y, Kozuma K, et al	内科学講座(循環器)	Validation of reliability and predictivity of membrane septum length measurement for pacemaker need after transcatheter aortic valve replacement	Catheter Cardiovasc Interv. 2022 Nov; 100: 868–76	Original Article
100	Kataoka A, Shiba T, Katagiri S, et al	内科学講座(循環器)	Novel and Efficient Method for Diagnosing Infective Endocarditis Using 16S Ribosomal RNA Gene Amplicon Sequence	JACC Case Rep.2023 Feb; 11: 101793	Original Article
101	Hioki H, Watanabe Y, Kawashima H, et al	内科学講座(循環器)	Predictors of bioprosthetic valve dysfunction after transcatheter aortic valve implantation	AsiaIntervention. 2023 Mar; 9: 87–94	Original Article
102	Kataoka A, Takata T, Yanagawa A, et al	内科学講座(循環器)	Body Surface Radiation Exposure in Interventional Echocardiographers During Structural Heart Disease Procedures	JACC Asia. 2023 Mar; 3: 301–9	Original Article
103	Uno, Takeshi ; Shojima, Masaaki ; Oyama, Yuta et al.	脳神経外科学講座	Retrograde endovascular revascularization for chronic total occlusion of the internal carotid artery: a case report	Acta Neurochirurgica.2022 Apr;164(4):1015–1019	Original Article
104	Uno, Takeshi ; Shojima, Masaaki ; Oyama, Yuta et al.	脳神経外科学講座	Anatomical Factors That Impede Using the Radial Artery Approach for Carotid Artery Revascularization	World Neurosurgery.2022 Apr;160:e398–e403	Original Article
105	Kawaguchi, Ai ; Shin, Masahiro ; Hasegawa, Hirotsuka et al.	脳神経外科学講座	Endoscopic Extended Transclival Approach for Lower Clival Meningioma	World Neurosurgery.2022 Aug;164:117	Original Article
106	Asami, Masahiro ; Nakahara, Shinji ; Miyake, Yasufumi et al.	脳神経外科学講座	Serum D–dimer level as a predictor of neurological functional prognosis in cases of head injuries caused by road traffic accidents	BMC Emergency Medicine.2022 Dec;22(1)	Original Article
107	Nakamura Y, Umekawa M, Shinya Y, et al.	脳神経外科学講座	Stereotactic radiosurgery for skull base adenoid cystic carcinoma	Surg Neurol Int. 2022 Nov 4;13:509	Case report
108	Hirano Y, Shinya Y, Aono T, et al.	脳神経外科学講座	The Role of Stereotactic Frame–Based Biopsy for Brainstem Tumors in the Era of Molecular–Based Diagnosis and Treatment Decisions	Curr Oncol.2022 Jun 28;29(7):4558–4565	Original Article
109	Kaneko, Tomoyuki ; Yanagida, Kazuki ; Matsui, Kentaro et al.	泌尿器科学講座	Incidence of genitourinary injuries in pelvic fractures: A 12–year single–center retrospective study	Neurourology and Urodynamics.2022 Apr;41(4):1025–1030	Original Article
110	Ujiie, Takashi ; Kawai, Taketo ; Kaneko, Tomoyuki et al.	泌尿器科学講座	Primary diffuse large B cell lymphoma of the prostate in a patient with HIV infection	IJU Case Reports.2023 Jan;6(1):30–32	Original Article
111	Agematsu, Ai ; Kamata, Masahiro ; Namiki, Kaoru et al.	皮膚科学講座	Usefulness of Noninvasive Management With the Gutter Method for Epidermal Growth Factor Receptor Inhibitor–Induced Paronychia, Pyogenic Granuloma–Like Lesion, and Ingrown Nail	JAMA Dermatology.2022 May;158(5):583–585	Letter
112	Uchida, Hideaki ; Kamata, Masahiro ; Egawa, Shota et al.	皮膚科学講座	Impact of the COVID–19 pandemic on biologic treatment in psoriasis patients: A single–center retrospective study in Japan	Journal of Dermatology.2022 Jun;49(6):624–628	Original Article
113	Kamata, Masahiro ; Tada, Yayoi	皮膚科学講座	Dendritic Cells and Macrophages in the Pathogenesis of Psoriasis	Frontiers in Immunology.2022 Jun;13	Review
114	Ito, Makoto ; Kamata, Masahiro ; Uchida, Hideaki et al.	皮膚科学講座	Ixekizumab rapidly improves inflammatory markers in patients with generalized pustular psoriasis	British Journal of Dermatology.2022 Nov;187(5):793–795	Letter
115	Uchida, Hideaki ; Kamata, Masahiro ; Egawa, Shota et al.	皮膚科学講座	A real–world, single–center experience and the immediate impact of granulocyte and monocyte adsorption apheresis on generalized pustular psoriasis	Journal of the American Academy of Dermatology.2022 Nov;87(5):1181–1184	Original Article
116	Tada, Yayoi ; Kim, Hyunchung ; Spanopoulos, Dionysis et al.	皮膚科学講座	Treatment patterns, healthcare resource utilization, and costs in patients with moderate–to–severe psoriasis treated with systemic therapy in Japan: A retrospective claims database study	Journal of Dermatology.2022 Nov;49(11):1106–1117	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
117	Uchida, Hideaki ; Kamata, Masahiro ; Egawa, Shota et al.	皮膚科学講座	Newly developed erythema and red papules in the face and neck with detection of demodex during dupilumab treatment for atopic dermatitis improved by discontinuation of dupilumab, switching to upadacitinib or treatment with oral ivermectin: A report of two cases	Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology.2023 Mar;37(3):e300-e302	Letter
118	Ito, Makoto ; Kamata, Masahiro ; Uchida, Hideaki et al.	皮膚科学講座	Immediate exacerbation of atopic dermatitis after switching from upadacitinib to dupilumab: A report of two cases	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy.2023 Mar	Original Article
119	Watanabe A, Kamata M, Shimizu T, et al.	皮膚科学講座	Serum levels of angiogenesis-related factors in patients with psoriasis.	J Dermatol. 2023 Feb;50(2):222-228	Original Article
120	Miki Yamada, Hiromitsu Jinno, Saki Naruse, et al.	病理診断科	Large Nipple Volume as a Risk Factor of Nipple-areola Complex Necrosis Following Nipple-sparing Mastectomy	World J Surg. 2022 May;46(5):1116-1121	Original Article
121	Yamamoto, Masayoshi ; Furui, Shigeru ; Yamada, Kentaro et al.	放射線科学講座	Skin Redness of the Trunk Developed After Lymphatic Embolization in the Pelvic Region	CardioVascular and Interventional Radiology.2023 Mar;46(3):414-416	Letter
122	Harada, Mae ; Sajima, Takeyuki ; Onimaru, Taichi et al.	麻酔科学講座	Changes in platelet function and coagulation after transcatheter aortic valve implantation evaluated with thromboelastography	Open Heart.2022 Nov;9(2)	Original Article
123	Nakata Y, Watanabe Y, Ozaki A	麻酔科学講座	Productivity change of surgeons during the coronavirus disease 2019 pandemic in Japan	Inquiry 2022 Jan-Dec;59	Original Article
124	Nakata Y, Watanabe Y, Ozaki A	麻酔科学講座	Surgical productivity did not suffer despite the states of emergency against the COVID-19 pandemic in Japan: a retrospective observational study	BMC Health Services Research 2022 Oct 20; 22(1):1267	Original Article
125	Nakata Y, Watanabe Y, Otake H	麻酔科学講座	Effect of surgeon experience on technical efficiency	Health Services Management Research 2023 Feb; 36(1):34-41	Original Article
126	Yuki Okutomi, Takeyuki Sajima, Atsushi Yasuda, et al.	麻酔科学講座	Acute hypoxemia due to right-to-left shunt via a patent foramen ovale during left internal thoracic artery to left anterior descending artery anastomosis in off-pump coronary artery bypass grafting: a case report	JA Clinical Reports. 2023 Mar 16;9(1):15	Case report

小計10件

合計126件

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会への申請受け取りから開催準備、開催、開催審議結果の書類作成、判定書の作成及び送付、申請者への通知書や議事録の送付等を記載している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメント規定において、目的・定義・申告すべき教職員と自己申告の時期・自己申告すべき事項・利益相反状態の評価方法・審議結果の報告方法・啓蒙活動と情報の公開・個人情報の管理などについて規定している。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1302回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 4回
・ 研修の主な内容 1. 研究関連リスクマネジメント総合研修（研究不正防止・公的研究費の不正使用防止・利益相反管理・安全保障輸出管理・知的財産管理）	

2. 倫理委員長による大学院講義「臨床疫学：2022年6月10日」（大学院生以外も受講可）
3. 第10回TARCセミナー（「帝京大学における特定臨床研究の現状」、「特定臨床研究の申請、準備、実施についての経験の共有」、「帝京大学における臨床研究の支援体制、研究実施に際して押さえておくべきポイント」）
4. 第11回TARCセミナー（臨床研究における個人情報の保護）
5. 全教職員と大学院生にe-ラーニング受講を義務付けている。

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

〈内科〉

○内科集談会

長期の偏食・日光照射不足によりビタミンD欠乏症骨軟化症を生じた1例。

直腸癌化学療法中に乳び胸水を来した1例。

左卵巣嚢腫核出後に発生したClostridioides difficileによる卵巣膿瘍の一例。

〈循環器内科〉

○冠動脈造影検査の評価および結果を上級医と確認し、今後の治療方針について検討する。冠動脈形成術施行症例を確認して、適切なデバイス選択や治療方法について学ぶ。

○TAVI症例の検討を循環器内科医、心臓外科医、麻酔科医、放射線技師やMEなどのコメディカルスタッフの多職種で検討する

○死亡症例や合併症症例に対する原因と対策を多職種で話し合い検討する。

〈緩和ケア内科〉

○がん性疼痛の機序、評価及びWHO方式のがん性疼痛医療法を含むがん性疼痛・呼吸困難、消化器症状等の身体症状・不安、抑うつ及びせん妄等に対する緩和ケアについて。

がん医療におけるコミュニケーション技術、全人的な緩和ケアについて・放射線用法や神経ブロックの適応も含めた専門的な緩和ケアへの依頼・がん患者の療養場所の選択および地域連携についての要点。在宅における緩和ケア。

症候学的手法による病態評価と治療方法を、臨床実践をベッドサイドにおいて習得する。プレゼンテーショントレーニング、アテンディングを併行して行う。2022年度はリモートラウンドで実施。

多職種を含むPeer-reviewを行うカンファレンス（リモート）

〈脳神経内科〉

○病棟の問題症例を中心に受持ち医などが、最新の文献上の知見などを調べて発表し、皆で知識を共有すると共に診療方針を検討する。

○最近の興味ある論文について、研修中の医師が調べてその内容をまとめて発表し、皆で知識を共有する。

○シニアの医師による臨床症候、疾患、電気生理などについてのクルズス、受持医クラスが問題症例の発表を行い、ラウンドテーブル形式で討論して、皆の知識・技能の向上を図る。2020年度よりZoom開催を主体としており、遠方、海外からの参加者もある。

〈外科〉

○毎週月曜、火曜日にその週および翌週の手術予定患者について診断、合併症の有無とその対策、周術期管理法、術式、追加的治療の必要性について討議する。

○毎週水曜日に呼吸器外科ならびに呼吸器疾患に関する英語文献を選定し、プレゼンを行い、ディスカッションなどを通して最新の知見を得、知識を深めるための勉強会を行う。

○手術症例についての診断、手術術式、病理結果に関する消化器内科との検討会。

○上部消化管外科手術患者に対する最新の手術方法・周術期管理法を解説した

○消化器全般に関わる疾患に対する、診断・治療・手術・病理組織診断結果を振り返り検討を行う。消化器内科との合同カンファレンス。

○外科手術症例について、術前画像、手術所見、実際の手術について腹腔鏡のビデオ画像を供覧しながら手術手技に対する検討を行う。コロナ禍で動物実習は困難だったので、ドライラボを開催(4回)。

- 大腸疾患（はば広く良性疾患、IBD、大腸癌）の内視鏡診断に関する講義とシュミレーションを用いた大腸内視鏡挿入手技・治療手技の研修
- 乳腺外科医を中心に、形成外科医、腫瘍内科医、放射線医、放射線技師、薬剤師などがチームとなって乳腺疾患に関する情報を共有・検討する。
- 乳腺疾患を中心に、最新のトピックスに関するデータや論文等を収集・議論・検討する。
- 肝胆膵疾患の外科治療対象症例に関して、手術や病理標本のプレゼンテーション、術直前症例の術前サマリー・画像診断の確認をおこなう。

〈小児外科〉

- 入院患者の治療方針の決定。手術期患者の術式、術後経過、手術合併症等の検討。

〈脳神経外科〉

- 当科に入院し、今後、手術加療が必要となる患者に対し手術方針の検討を、臨床画像や3Dシミュレーション画像を用いて検討を行い、研鑽を積む。
- 脳神経外科、脳神経内科の医師を対象に、症例の医療画像を確認しながら、画像上の特徴について、discussionを行いながら、研鑽を積む。

〈整形外科〉

- 当院で手術予定および手術をうけた患者に関するカンファレンス。患者情報を用い、整形外科、外傷センター全構成員が一同に会する場で、整形外科疾患、整形外科外傷に関する診断、手術適応、術式などの妥当性を研修する。週1回実施。
- 整形外科および関連分野の最新の知見を、講演を通して学ぶ。
- 整形外科外傷に関する最新の知見を、講演を通して学ぶ。当院外傷センターおよび関連施設で勤務する研修医自身が経験した症例を通して学んだ事項を発表することにより、プレゼンテーションの研修および、症例発表にたいする準備を研修する。

〈心臓血管外科〉

- 心臓血管外科 専門領域としてのスペシャリティ領域について 大血管 冠動脈 僧帽弁形成 大動脈弁形成 TAVI ステンントグラフト 大動脈解離 人工血管置換 等 ガイドラインや最新論文を交えて解説する。
- 医学論文を書く上で最低限身に着けておきたい医学統計について実例を交えながら解説する。
- 実際のブタの心臓を用いて、冠動脈吻合や人工血管置換術・弁置換術を行い、解剖や主義の解説をし知識を深める。
- 心臓血管外科手術手技（開胸・ITA採取・人工心肺カニューレーション・人工血管吻合）に関して、手技をやり始めた若手を中心として方法・コツ等について討論する。

〈泌尿器科〉

- 進行尿路上皮癌治療のニューノーマル、進行性尿路上皮癌に対する薬物療法治療戦略、尿路上皮癌におけるバベンチオの適正使用と課題について
- 外科的治療を受けた骨盤骨折症例における短期的排尿障害および下部尿路損傷の予測因子について
- PSA倍加時間は非転移性/オリゴ転移性CRPCへのsite-directed therapyの効果を予測する

〈リハビリテーション科〉

- リハビリテーションの症例や研究内容の発表と報告

〈精神神経科〉

- 病棟患者すべての入院後経過を共有し、治療方針、問題点等を検討する。同時に、行動制限の適切性なども協議し、医療倫理や法的順守の重要性についても研修を行う。
- 特定の患者の診断、治療方針、退院支援等について、生活歴や家族歴、経過、病棟生活の様子

などをもとに多職種（医師、看護師、薬剤師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士）で検討を行う。精神疾患や検査・治療に関する最新の医学知識に加え、患者の生活を支える社会的視点も学ぶ。

○入院患者の病状、生活状況、入院生活上の問題点が看護師中心に話し合われるが、医師として参加し、その立場からの見解を提示する。協議内容を治療に生かすことで臨床スキルの向上を目指すとともに、多職種協働医療の在り方を研修する。

○精神神経科に所属する全医師の研究発表、および外部講師による勉強会を行っている。なお、勉強会ではトピックスから所属医師が希望する内容まで精神医学全般に渡って幅広く行われているのが特徴である。

〈形成外科〉

○術前カンファで術式の選択、手術デザインを検討する。術中・術後の状態を撮影したデジタルカメラ像を投影し手術の確認を行い適正に行われたか、問題点がなかったかについて検証する。

○新着英文雑誌より興味ある内容の論文を選択し、抄読会を行う。

○週1回病棟の褥瘡患者を回診し、その治療法について検討する。また褥瘡の予防法を学び院内での有病率低下に努める。

〈歯科口腔外科〉

○睡眠時無呼吸症候群に対して歯科としての治療介入について。

○顎変形症患者における術前のモデルオペについて。

○口腔癌の診断と治療について。

〈皮膚科〉

○担当医が症例写真と病理組織を提示し、症例検討して診断治療方針を決定する。

○発疹学やカメラの撮り方、各皮膚疾患まで皮膚科に関連したそれぞれの分野を担当医が新人へ講義する。

〈眼科〉

○眼科各専門分野に関して、専門医が講義形式で解説を行う。項目：網膜硝子体、角膜疾患、斜視、眼瞼、腫瘍、白内障、ぶどう膜疾患、手術 など

○帝京大学医学部附属病院にて、蛍光眼底造影検査を施行した症例について、シニアレジデントが読影する。その所見について指導を行う。

○一般演題4題を学会形式で発表し、質疑応答を行う。院外に所属している局員も参加する。当該年度は4人のシニアレジデントが発表を行った。

〈耳鼻咽喉科〉

○入院症例ならびに問題がある外来症例についてのカンファランス。放射線科と合同で、放射線治療例の検討等も行う。

〈小児科〉

○小児科のみならず臨床的に関連する専門領域（2022年度は小児血液・腫瘍、小児内分泌）の専門医より、小児臨床の周辺疾患について学ぶ。

○当院小児科に入院している症例について、各疾患分野の専門医を中心に症例検討をすることを通して疾患の理解を深める。

○当院小児科で入院・外来で加療している神経疾患の症例について、小児神経専門医がコアとなり、検査結果を検討するとともに、今後の診断・治療方針の討論に参加し、小児神経疾患に対する理解を深める。

○小児科・産婦人科合同で入院症例のみならず、出生前症例について討論し、治療方針を決定する。

○シニアレジデントを主な対象とし、各診療グループのリーダーがそれぞれの分野で習得すべき

疾患の病態生理、最新の治療法を教示する。

〈放射線科〉

○IVRの適応、術式について、核医学の診断について、放射線治療の適応、経過について、教育的な症例の画像診断について、泌尿器科疾患の治療適応、経過について、乳腺内分泌系臓器の治療適応、経過について、骨転移治療の適応、経過について、婦人科腫瘍治療の適応、経過について、骨軟部腫瘍の病理所見、経過について 等

〈産婦人科〉

○産科ガイドライン 婦人科ガイドライン、分子標的治療薬 無痛分娩 胎児心拍陣痛図
○周産期医療、小児科 新生児科との連携
○放射線治療内容の確認 臨床試験の確認

〈麻酔科〉

○前日のすべての手術症例に関して報告し、問題点と改善すべき事項について確認する。また当日施行予定の手術麻酔に関する検討を行う。
○麻酔科学全般に及ぶ基礎的事項のレクチャー
○麻酔科学全般に及ぶ高度かつ先進的な話題についてのレクチャー
○麻酔管理上の問題点や重要な合併症を生じた事例について、背景や要因、今後の対策等について検討する。
○学会発表、論文作成にかかわる研究全般について、研究計画の段階から討論する。

〈救急科〉

○救急科（医師、看護師）、放射線科（医師、放射線技師、看護師）、整形外科（外傷センター）、麻酔科（医師）合同で、当院ハイブリッドERにて診療した3次救急搬送症例の診療の流れや治療内容の振り返りを行い、多専門科で合意形成を行ったうえでのハイブリッドER診療プロトコルのブラッシュアップを行う。
○救命救急センターにおけるAcute Care Surgeryに関して、米国・欧州で用いられている緊急外科手術コースのマニュアル、教科書を使用して救急医として急性期一般外科疾患に対する見識を深める。

〈病理診断科〉

○数件の解剖例を臨牀的検索希望事項を含め、解説、協議検討を行う。
○1～2例程度の婦人科疾患に対して、病理組織学的診断、臨牀経過、所見などをあげ、協議や検討を行う。
○3～4例程度の呼吸器疾患に対して、病理組織学的診断、臨牀経過、所見などをあげ、協議や検討を行う。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨牀研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	233人
-------------	------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
塚本 和久	内科	教授	37年	
関 順彦	腫瘍内科	教授	28年	
上妻 謙	循環器内科	主任教授	33年	

渡邊 雄介	循環器内科	准教授	21	年	
有賀 悦子	緩和ケア内科	主任教授	36	年	
渡辺 温子	緩和ケア内科	病院准教授	27	年	
小林 俊輔	脳神経内科	主任教授	30	年	
坂尾 幸則	外科	教授	34	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
深川 剛生	外科	主任教授	34	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
松田 圭二	外科	病院教授	34	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
野澤 慶次郎	外科	准教授	32	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
端山 軍	外科	講師	21	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
神野 浩光	外科	教授	36	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
佐野 圭二	外科	教授	33	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
細田 利史	小児外科	講師	22	年	呼吸器外科・消化器外科・小児外科含む
辛 正廣	脳神経外科	主任教授	29	年	
河野 博隆	整形外科	主任教授	32	年	
松井 健太郎	整形外科	講師	21	年	
今水流 智浩	心臓血管外科	教授	28	年	
内山 雅照	心臓血管外科	講師	18	年	
中川 徹	泌尿器科	主任教授	29	年	
緒方 直史	リハビリテーション科	主任教授	31	年	
功刀 浩	精神神経科	主任教授	37	年	
渡邊由香子	精神神経科	講師	20	年	
小室 裕造	形成外科	主任教授	37	年	
大河内 真之	形成外科	病院教授	28	年	
有坂 岳大	口腔外科	講師	20	年	
大金 覚	口腔外科	准教授	18	年	
多田 弥生	皮膚科	主任教授	13	年	
田中 隆光	皮膚科	講師	13	年	
太根 ゆさ	眼科	助教	25	年	
水野 嘉信	眼科	助教	25	年	
井上 裕治	眼科	主任教授	25	年	
伊藤 健	耳鼻咽喉科	主任教授	35	年	
三牧 正和	小児科	主任教授	29	年	
小林 茂俊	小児科	教授	36	年	
伊藤 直樹	小児科	講師	29	年	
近藤 浩史	放射線科	教授	25	年	
神長 達郎	放射線科	病院教授	35	年	
白石 憲史郎	放射線科	病院教授	24	年	
長阪 一憲	産婦人科	主任教授	23	年	
柿沼 玲史	麻酔科	病院教授	26	年	

原 芳樹	麻酔科	教授	36 年
張 京浩	麻酔科	教授	35 年
伊藤 香	救急科	病院准教授	24 年
笹島 ゆう子	病理診断科	主任教授	27 年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容（リハビリテーション部）
 - 日本リハビリテーション医学会学術集会
 - 研修の期間・実施回数：2022年6月 4回
 - 研修の参加人数：4名

- ・研修の主な内容（病院病理部）
 - 東京都細胞検査士会学術集会
 - 研修の期間・実施回数：2022年7月 1回
 - 研修の参加人数：6名

- ・研修の主な内容（病院病理部）
 - 肝細胞がん・乳がん治療薬テセントリク
 - 研修の期間・実施回数：2022年12月8日 1回
 - 研修の参加人数：7名

- ・研修の主な内容（放射線部）
 - 東京CTテクノロジーセミナー学術集会
 - 研修の期間・実施回数：2022年7月、11月 2回
 - 研修の参加人数：3名

- ・研修の主な内容（放射線部）
 - TAVIカンファレンス
 - 研修の期間・実施回数：2022年4月～2023年3月 16回
 - 研修の参加人数：20名

- ・研修の主な内容（放射線部）
 - 乳腺外科オペ前カンファレンス
 - 研修の期間・実施回数：2022年4月～2023年3月 37回
 - 研修の参加人数：60名

- ・研修の主な内容（栄養部）
 - 日本病態栄養学会年次学術集会
 - 研修の期間・実施回数：2023年1月 1回
 - 研修の参加人数：9名

・研修の主な内容（輸血部）

- 日本輸血・細胞治療学会学術総会
研修の期間・実施回数：2022年5月 1回
研修の参加人数：4名

・研修の主な内容（輸血部）

- 東京都赤十字血液センターWeb配信
研修の期間・実施回数：2022年4月～2023年3月 4回
研修の参加人数：7名

・研修の主な内容（輸血部）

- 部内研修 感染防止対策について
研修の期間・実施回数：2023年2月 1回
研修の参加人数：部署全員

・研修の主な内容（中央検査部）

- 東京都臨床検査技師会
研修の期間・実施回数：2022年4月～2023年3月 24回
研修の参加人数：57名

・研修の主な内容（中央検査部）

- みなとみらいフォーラム
研修の期間・実施回数：2022年4月～2023年3月 3回
研修の参加人数：14名

・研修の主な内容（薬剤部）

- 日本臨床腫瘍薬学会学術大会
研修の期間・実施回数：2023年3月 1回

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容（病院病理部）

- がんゲノム医療従事者陽性研修会
研修の期間・実施回数：2022年12月 1回
研修の参加人数：7名

・研修の主な内容（放射線部）

- 一般撮影+Angio業務カンファレンス
研修の期間・実施回数：2022年4月～2023年3月 19回
研修の参加人数：101名

・研修の主な内容（放射線部）

○患者接遇に対する教育

研修の期間・実施回数：2022年9月 2回

研修の参加人数：10名

・研修の主な内容（輸血部）

○部内研修 精度管理について、インシデント・ヒヤリハット報告解析

研修の期間・実施回数：2022年4月～2023年3月 2回

研修の参加人数：部署全員

・研修の主な内容（輸血部）

○診療技術者連携委員会主催 勉強会「診療技術者連携委員会所属部署の病院組織としての役割」

研修の期間・実施回数：2023年3月 1回

研修の参加人数：6名

・研修の主な内容（中央検査部）

○採血室部門教育、生理機能検査室部門教育、微生物検査室部門教育

研修の期間・実施回数：2022年4月～2023年3月 25回

研修の参加人数：177名

・研修の主な内容（薬剤部）

○緩和医療領域薬剤師養成研究会

研修の期間・実施回数：2022年4月～2023年3月 4回

・研修の主な内容（薬剤部）

○薬剤部新人職員研修(同種・同効薬)

研修の期間・実施回数：2022年4月～2023年3月 29回

研修の参加人数：115名

・研修の主な内容（ME部）

○医療機器安全研修会

研修の期間・実施回数：2022年4月～2023年3月 2回

研修の参加人数：1109名

・研修の主な内容（ME部）

○既存機器に対する研修会

研修の期間・実施回数：2022年4月～2023年3月 3回

研修の参加人数：27名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	診療録 小笠原 后香
管理担当者氏名	和久 正志・稲垣 宏治・小久保 真

		保 管 場 所	管 理 方 法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	
		各科診療日誌	総務課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医療システム部	
		看護記録	医療システム部	
		検査所見記録	医療システム部	
		エックス線写真	医療システム部	
		紹介状	医療システム部	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療システム部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	各科診療科・総務課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	〃	
		高度の医療の研修の実績	〃	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携室	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課・医療サービス課 薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理部 総務課
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理部 総務課
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理部 総務課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理部 総務課	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部 総務課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部 総務課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部 総務課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部 総務課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	安全管理部 薬剤部 総務課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 総務課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課 薬剤部 (DI室) 安全管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部 中央放射線部 総務課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部 中央放射線部 管財課	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部 中央放射線部 管財課			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課
		医療安全管理部門の設置状況	総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	安全管理部 総務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	安全管理部 総務課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	安全管理部 感染制御部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者相談室 安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	法人本部総務課 病院総務課
		職員研修の実施状況	総務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法人本部		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人本部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	小笠原 后香(専任・診療録管理)
閲覧担当者氏名	和久 正志・稲垣 宏治・小久保 真
閲覧の求めに応じる場所	・診療情報管理部・閲覧室
閲覧の手続の概要 様式第5に記載の通り、「病院の管理及び運営に関する諸記録」はそれぞれの担当管理部署で適正に保管しているため、医師や歯科医師等から依頼があった場合には、全体の窓口は総務課となる。依頼用紙に記入してもらい、閲覧室内で対応する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理に関する基本的な考え方 2. 安全管理委員会その他の組織に関する基本事項 3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 安全確保を目的とした、事故報告書にもとづく改善策の立案、実施に関する基本方針 5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6. 病院職員と患者の情報共有に関する基本方針 7. 患者と家族への説明と同意に関する基本方針 8. 患者と家族等からの相談への対応に関する基本方針 9. 高難度新規医療技術の導入に関する基本指針 10. 安全管理対策に関する指針および安全管理マニュアルの見直しと周知の方針 	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <p>・ 設置の有無（☑・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全管理対策の推進 (2) 医療事故発生防止のために平時より次の事項を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①医療安全に関する情報収集 ②医療安全に係わる職員教育 ③事故発生防止策と施設・設備の改善計画の立案 ④事故発生防止策の実施状況の調査と必要に応じた見直し ⑤医療安全に係わるモニタリング項目の策定 (3) 当院において重大な問題その他本委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合に次の事項を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①原因究明のための調査および分析 ②診療録、看護記録等の調査および指導 ③患者、家族等への対応状況の確認および指導 ④再発予防策の立案・実施・職員への周知徹底 ⑤再発予防策の実施の状況の調査および必要に応じた見直し (4) すべての死亡事例、管理者が定める水準以上の事例の収集状況の確認と確認結果の管理者への報告および職員への研修・指導 (5) 特定機能病院間相互のピアレビューの結果報告に基づく改善策の立案 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 14 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p style="text-align: center;">別紙 8 参照</p>	
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（☑・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p style="text-align: center;">安全管理委員会において事故の事例分析および発生要因の分析を行い、改善策を立案し、各部署・職員に対し周知徹底する。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会および組織に関する基本事項 3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4. 院内感染発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 院内感染対策のための指針および院内感染対策要綱の見直しと周知の方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染状況を監視、調査するとともに、対策を立案し、その拡大を防止するための具体策を関係方面に提言するとともに、対策の実施について病院長および感染制御部長に具申する。 2. 周知すべき感染症の情報を院内諸方面に伝達する。 3. その他、院内感染予防のために必要な業務を行う。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p style="text-align: center;">別紙 9 参照</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>感染制御部・感染制御委員会において感染症発生要因の分析を行い、改善策を立案し、各部署・職員に対し周知徹底する。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p style="text-align: center;">別紙 10 参照</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (☑・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 病棟における医薬品の管理に関する事項 6. 入院患者への医薬品使用に関する事項 7. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 8. 他施設との連携に関する事項 9. 院内製剤に関する事項 10. 放射性医薬品に関する事項 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)：</p> <p>モーズ軟膏：乳がん浸潤による皮膚潰瘍の汚臭、止血効果を目的に使用 Triquilar (Levonorgestrel and Ethinylloestradiol Tablets IP)：月経不順・月経痛のため患者自身で購入し持参薬として持ち込み ヒスチジン銅：小児のメンケス病に対して使用</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>未承認医薬品のみならず、医薬品の禁忌・適応外使用においては、患者への説明・同意に関するカルテ記載等についても薬剤師が確認し、必要に応じ医師に疑義を行っている。 また、職員メールでも注意喚起を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 108 回 (全体研修 1 回)
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>人工呼吸器、人工心肺および補助循環装置、血液浄化装置、除細動器（AED を除く）、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線装置、診療用放射線照射装置に対して定期研修を計画・実施し、実施状況を毎月の医療機器安全管理委員会にて医療機器安全管理責任者へ報告している。</p> <p>・ 生命維持管理装置の定期安全研修：14 回</p> <p>・ 新規導入機器に対しての研修会：79 回</p> <p>・ 既存機器に対する研修会：14 回</p> <p>・ 全体研修：別紙 1 1 参照</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係わる計画の策定 (☑・無)</p> <p>・ 機種ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>前年度の 3 月までに点検計画策定をおこない、医療機器安全管理委員会にて医療機器安全管理責任者の承諾を取り新年度より実施する。実施状況を毎月の医療機器安全管理委員会にて医療機器安全管理責任者へ報告している。</p> <p>保守点検の主な内容</p> <p>1) 使用前、使用中、使用後の点検</p> <p>2) 定期点検及び年次点検（医療機器ごとに期間を設定し、メーカー依頼している。）</p> <p>3) 点検方法は各医療機器の添付文書・取扱説明書を参考に実施。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係わる情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>医療機器安全使用のために必要な情報の収集・取扱説明書と添付文書を電子カルテへ掲示・メーカーからの情報提供やインターネットから PMDA、医療安全情報などを収集し、安全管理部および安全管理委員会と連携し、電子カルテインフォメーション、医療機器安全研修会にて通達、報告し</p>	

ている。

- ・未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし

- ・その他の改善のための方策の主な内容：

毎月の医療機器安全管理委員会にて医療機器の不具合事象の報告があり、安全管理部および安全管理委員会と連携し改善と対策をしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☑・無
<p>・責任者の資格（<u>医師</u>・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は安全管理担当副院長が担っており、安全管理担当副院長は安全管理委員会委員長及び、安全管理部副部長を務めている。医薬品安全管理責任者及び、医療機器安全管理責任者は安全管理部に所属し、安全管理委員会において活動状況を報告している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☑（9名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品安全管理責任者は、医薬品の安全使用状況を把握するために薬剤部内に所属する全ての薬剤師を指名し、以下の業務を確認する。</p> <p>医薬品情報室の薬剤師が、病棟を担当する薬剤師を通じて院内の医薬品の使用状況を定期的に（1カ月に1回）確認し、その結果を踏まえて添付文書情報（禁忌等）、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時または医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に係る情報を整理し、必要に応じてその結果を医薬品安全管理責任者に報告する。</p> <p>医薬品安全管理責任者は、報告された情報を踏まえ、安全管理部長に報告するとともに、必要に応じて医薬品の適正使用のための注意喚起情報を、医薬品情報室を通じて周知する。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>薬剤師等の医療従事者は、未承認の医薬品等（治験等を除く）の使用、医薬品の適応外・禁忌等に該当する処方または指示を見いだした場合、薬剤部医薬品情報室に報告する。また、必要に応じて、処方医等に当該処方または指示の必要性やリスク検討の有無、妥当性等を確認し、指導を行い、その内容を診療録に記載する。</p> <p>医薬品安全管理責任者は、薬剤部医薬品情報室に報告された、未承認の医薬品等（治験薬を除く）の使用、医薬品の適応外・禁忌等に該当する処方または指示に関する情報を定期的に（1カ月に1回）確認し、必要に応じて、処方医等への指導を行うとともに、未承認の医薬品等（治験薬を除く）の使用に関して必要な情報を、医薬品情報室を通じて周知する。</p> <p>・担当者の指名の有無（☑・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p>	

(所属：薬剤部調剤・製剤部門責任者，職種：薬剤師) (所属：薬剤部麻薬担当責任者，職種：薬剤師) (所属：薬剤部注射調剤・薬品管理部門責任者，職種：薬剤師) (所属：薬剤部病棟部門責任者，職種：薬剤師) (所属：薬剤部化学療法部門責任者，職種：薬剤師) (所属：薬剤部医薬品情報部門責任者，職種：薬剤師)	
③ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 診療情報管理部と連携して、定められた書式を用いて適正な手順で説明を行っているか、診療録にIC記録(テンプレート)があるか点検を行っている。 研修会にてインフォームドコンセントの正しい手順について指導を行っている。 改善が必要な診療科に対してインフォームドコンセント管理責任者が指導を行っている。	

④ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <p style="text-align: center;">別紙 12 参照</p>	
⑤ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・所属職員：専従（7）名、専任（0）名、兼任（25）名 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（17）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（2）名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： (1) 安全管理対策の推進 (2) 安全管理部会および臨時の安全管理委員会の開催 (3) リスクマネージャー会議を開催し、安全管理委員会で決定された事項の周知徹底	

- (4) 医療安全対策の推進
- (5) 医療事故発生防止のための情報収集と教育
- (6) 医療安全に資する診療内容および従業者の医療の安全に関する意識の向上のモニタリング
【モニタリング項目：死亡事例、口頭指示、手術時の出血、カテーテル挿入、緊急蘇生チーム要請、Rapid Response Team (RRT) 要請、転倒転落事例】
- (7) 院内各部署への立ち入り調査と関係書類の調査
- (8) 安全管理に関わる関係部署との連絡調整
- (9) 医療事故発生防止のための対策の立案と施設・設備の改善計画の立案および実施状況の調査
- (10) 特定機能病院間相互のピアレビュー実施および結果報告
- (11) 発生した医療事故の実情の把握と処理法の立案および実施
- (12) 発生した医療事故等に関する診療録、看護記録等の調査および指導
- (13) 発生した医療事故に対する患者、家族等への対応状況の確認および指導
- (14) 発生した医療事故の原因の究明および指導
- (15) 発生した医療事故に対する再発予防対策の立案・実施・職員への周知徹底
- (16) 安全管理委員会、安全管理部会、リスクマネージャー会議の資料および議事録の作成並びに保存等の庶務に関すること
- (17) 全ての死亡事例、管理者が定める水準以上の事例の収集および管理者への報告
- (18) 研究に関わる有害事象報告について臨床試験・治験統括センターへの情報提供
- (19) 高難度新規医療技術評価係を設置し、高難度医療技術（その実施により患者の死亡その他の重大な影響が想定される医療技術をいう。以下同じ。）を用いた医療の提供に関する経験および知識を有する医師または歯科医師を責任者として、高難度新規医療技術の実施の適否を判断すること
- (20) 未承認新規医薬品等評価係を設置し、部員の医薬品安全管理責任者を責任者として、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供を判断すること
- (21) 適応外医薬品等評価係を設置し、部員の医薬品安全管理責任者を責任者として、適応外医薬品等を用いた医療の提供を判断すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従業者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑥ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（35件）、及び許可件数（34件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：

各診療科からの下記確認事項（①～⑤）の申請に対し、高難度新規医療技術評価委員会に導入の適否、実施を認める条件等について意見聴取。その委員会の意見を踏まえ提供の適否判定を行い、診療科長および病院長へ結果通知。提供後、および以降定期的に（3ヵ月後、6ヵ月後、1年後）実施報告内容の確認を行う。

- ①患者の病態等を踏まえた既存技術の限界・問題点
- ②高難度新規医療技術と既存の医療技術とを比較した場合の優位性
(合併症の重篤性及び発生の可能性等の安全性の観点を含む)
- ③当該高難度新規医療技術を用いた医療を提供する医師又は歯科医師その他の従業員の高難度医療技術を用いた医療の提供に関する経験
- ④必要な設備・体制の整備状況 (集中治療室、麻酔科医師、看護師との連携等)
- ⑤患者に対する説明及び同意の取得の方法
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑦ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (30 件)、及び許可件数 (25 件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (・ 無)
- ・ 活動の主な内容 :
各診療科からの下記確認事項 (①～⑤) の申請に対し、未承認新規医薬品等評価委員会に使用の適否、実施を認める条件等について意見聴取。その委員会の意見を踏まえ使用の適否判定を行い、診療科長および病院長へ結果通知。使用后、および以降定期的に (3 ヶ月後、6 ヶ月後、1 年後) 実施報告内容の確認を行う。
①患者の病態等を踏まえた既存医薬品等の限界・問題点
②当該未承認新規医薬品等と既存の医薬品等を比較した場合の優位性
(予測される有害事象の重篤性、頻度等の安全性等の観点を含む)
③未承認新規医薬品等の使用条件 (使用する医師又は歯科医師の制限等)
④当該未承認新規医薬品等の使用に起因するものと疑われる有害事象の把握の方法
⑤患者に対する説明及び同意の取得の方法
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑧ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 788 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 152 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

すべての死亡事例、管理者が定める水準以上の事例の収集状況の確認と確認結果の管理者への報告 および職員への研修・指導
⑨ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り（<input checked="" type="checkbox"/>（病院名：慶應義塾大学病院）・無） ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（<input checked="" type="checkbox"/>（病院名：慶應義塾大学病院）・無） ・技術的助言の実施状況 <p style="text-align: center;">別紙 13 参照</p>
⑩ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
<ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 <p style="text-align: center;">別紙 14 参照</p>

⑪ 職員研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 2022年6月10日「医療安全・感染防御に関する研修会」 外部監査委員会結果報告 2022年9月7日「ストップ感染デー研修会」 診療録質的点検の変更について（病院機能評価中間報告をふまえて） 2022年10月13日「医療安全および災害体制に関する研修会」 高難度、未承認、適応外 導入手続きについて 2023年2月24日「医療安全に関する研修会」 内部通報窓口 2023年6月9日「職員研修会」 外部監査委員会報告、高難度、未承認、適応外 導入手続きについて

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑫ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 <p>管理者</p>

<p>2022年11月21日(月) 公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」 管理者 2023年11月20日(月) 受講予定 公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」</p> <p>医療安全管理責任者 2022年11月21日(月) 公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」 医療安全管理責任者 2023年12月15日(金) 受講予定 公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」</p> <p>医薬品安全管理責任者 2022年11月11日(金) 公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」</p> <p>医療機器管理責任者 2022年11月11日(金) 公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」</p> <p>医療機器管理責任者 2023年12月4日(月) 受講予定 公益財団法人日本医療機能評価機構開催 「特定機能病院管理者研修」</p>
--

(注) 前年度の実績を記載すること

<p>⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況</p> <p>・ 第三者による評価の受審状況</p> <p>2012年2月に日本医療機能評価機構における一般病院2(Ver. 6.0)を受審後認定 2017年2月に日本医療機能評価機構における一般病院2(3rdG Ver. 1.1)を受審後認定(現在継続中) 2022年6月に特定機能病院に新たに設けられた一般病院3(3rdG Ver. 2)を受審 中間的な結果報告を8月10日に日本医療機能評価機構から受理。補充的な審査を受けるべくC評価に対する改善を行った。(C評価項目 2.1.2 診療記録を適切に記載している) 10月に補充的な審査を受審し、12月2日付で認定を取得した。(認定期間: 2022年2月3日~2027年2月2日)</p> <p>・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況</p> <p>2022年12月27日 病院ホームページに日本医療機能評価機構の情報提供ページリンクを掲載してい</p>

る。

・評価を踏まえ講じた措置

2022 年

8 月 10 日 診療録記載改善委員会で改善案を策定

8 月 17 日 運営会議で改善案を承認

8 月 24 日 病院機能評価準備委員会で周知、診療科長・グループ長に文書にて通知

9 月 7 日 全職員研修会で改善案を周知

9 月 13 日 診療連絡委員会にて改善案を周知

9 月 14 日 臨床科長会議で周知と第一回実施の結果説明

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師免許を有している者 2. 医療安全管理業務の経験や、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有し、医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 3. 当院または当院以外の病院での組織管理経験、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力を有している者 4. 帝京大学の建学の精神を深く理解し、当院の理念である「患者そして家族と共にあゆむ医療」を確実に実践できる者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) ・ 公表の方法 病院ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) ・ 公表の方法 病院ホームページ 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
別紙15参照				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算その他の病院の運営等 ・審議の概要の従業者への周知状況 臨床科長会議等を通じてすべての部署へ説明している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・☑） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・☑） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
冲永寛子		医師	常務理事
澤村成史	○	医師	病院長
河野博隆		医師	診療担当副院長
上妻 謙		医師	安全管理担当副院長
山本貴嗣		医師	総務担当副院長
佐野圭二		医師	診療担当副院長補佐
安田篤史		医師	安全管理担当副院長補佐・医療機器安全管理担当責任者
多田弥生		医師	総務担当副院長補佐
土谷明子		看護師	看護部長
安野伸浩		薬剤師	薬剤部長・医薬品安全管理担当責任者
内山喜代志		放射線技師	中央放射線部課長
和久正志		事務職員	事務長
稲垣宏治		事務職員	総務課長・次長
小久保真		事務職員	医事課長
川村雅文〈オブザーバー〉		医師	医学部長
村松直樹〈オブザーバー〉		事務職員	企画・管理局長
山本武司〈オブザーバー〉		事務職員	法人事務局長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・~~無~~）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
別紙 16 参照（帝京大学医学部附属病院 病院長・副院長業務細則）

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
別紙 16 参照（帝京大学医学部附属病院 病院長・副院長業務細則）

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 院内研修として、マネジメントに関する職員研修会を計画的に実施している。
 - ・ 外部研修にも積極的に参加している（特定機能病院管理者研修、医療安全管理者養成講習会など）。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					☑・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容： 管理者をはじめとして、医療安全管理責任者、安全管理部長、安全管理委員会委員長、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者、インフォームドコンセント管理責任者、診療録管理責任者がそれぞれの職務の実績について委員に報告する。また、委員は現場を巡視し、自ら確認を行う。委員長は監査結果をまとめ改善すべき点があれば、開設者および管理者に対し、是正措置を講ずるよう意見を表明する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（☑・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（☑・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（☑・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・☑）</p> <p>・ 公表の方法： 病院ホームページに公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺尾 壽夫	東京都医師国保 組合議員 脳神経内科医師	○	・ 医療に係る安全管理に関する識見を有する者 ・ 脳神経内科医師として医療に造詣が深いため	有・無	1
秦 奈峰子	太田・佐藤法律 事務所 弁護士・医師		・ 医療に係る安全管理及び法律に関する識見を有する者 ・ 医師と弁護士の資格を持ち医療と法律双方を理解されているため	有・無	1
橋本 恵正	当院の患者代表		・ 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 ・ 当院に通院歴のある患者を代表して	有・無	2
川村 雅文	帝京大学医学部		・ 当院での臨床経	☑・無	3

	長		験がある中立的な 評価ができる立場 にある者 ・医学部を統括す る者として		
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

法人本部内に内部監査室、企画・管理局を設置し、内部監査室が内部監査プロセスを通じモニタリングすると共に、法人の事務局長、企画・管理局長が病院運営会議にオブザーバー参加することで、定期的に病院運営状況を確認できるようにしている。

- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 別紙 17 参照 ・ 会議体の実施状況（年 10 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（有・<input checked="" type="radio"/>）（年 回） ※常務理事から理事会へ報告されている ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="radio"/>） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 周知の方法 全職員にポケットマニュアルを配布し周知、各部署に附属病院規程集を配布し周知、電子カルテ掲載、全職員メール通知、新入職員オリエンテーション、全職員研修会での周知

帝京大学医学部附属病院 病院長選考委員会委員名簿

委員	氏名	現職	経歴	選定理由等
委員長	冲永 寛子	常務理事	帝京大学医師会長、 副学長を歴任し現職	「病院長選考規程」に基づき、 帝京大学理事会を代表する者として 委員に選出。 理事長が委員長に指名。
学内委員	川村 雅文	医学部長	外科主任教授、副院長 を経て現職	「病院長選考規程」に基づき、 医学部を統括する者として委員に 選出。
〃	内山 喜代志	中央放射線部 課長	副技師長、技師長補佐 を歴任し現職	「病院長選考規程」に基づき、 メディカルスタッフを代表する者 として委員に選出。
学外委員	寺尾 壽夫	東京都医師国保組合 議員	特別養護老人ホーム寿 栄園施設長、千代田区 嘱託医を経て現職	「病院長選考規程」に基づき、 帝京大学医学部附属病院監査委員 会委員長として学外委員に選出。
〃	高野 正敏	社会福祉法人 あしたば中野学園 学園長	千葉県地域自立支援協 議会会長、千葉県社会 福祉協議会理事を経て 現職	「病院長選考規程」に基づき、 社会福祉関係の豊富な経験を有す る者として学外委員に選出。
〃	斉木 進	社会福祉法人寿永会 相模湖みどりの丘 副施設長	山梨中央銀行支店長、 営業推進室長を経て 現職	「病院長選考規程」に基づき、 企業のマネジメントに豊富な経験を 有する者として学外委員に選 出。

帝京大学医学部附属病院 病院長選考委員会委員名簿

2023.7.1 ~

委員	氏名	現職	経歴	選定理由等
委員長	冲永 寛子	常務理事	帝京大学医師会長、 副学長を歴任し現職	「病院長選考規程」に基づき、 帝京大学理事会を代表する者として委員に選出。 理事長が委員長に指名。
学内委員	川村 雅文	医学部長	外科主任教授、副院長 を経て現職	「病院長選考規程」に基づき、 医学部を統括する者として委員に選出。
〃	内山 喜代志	中央放射線部 課長	副技師長、技師長補佐 を歴任し現職	「病院長選考規程」に基づき、 メディカルスタッフを代表する者 として委員に選出。
学外委員	寺尾 壽夫	東京都医師国保組合 議員	特別養護老人ホーム寿 栄園施設長、千代田区 嘱託医を経て現職	「病院長選考規程」に基づき、 帝京大学医学部附属病院監査委員 会委員長として学外委員に選出。
〃	青木 豊	公益財団法人 労働問題リサーチセ ンター 理事長	厚生労働省労働基準局 長、中央職業能力開発 協会理事長を経て現職	「病院長選考規程」に基づき、 組織のマネジメントに豊富な経験 を有する者として学外委員に選 出。

帝京大学医学部附属病院 病院長・副院長業務細則

(目的)

第1条 この細則は、帝京大学医学部附属病院(以下、「当院」という。)における医療提供の責任者である病院長が当院の管理運営に必要な指導力を発揮して医療安全等を確保するために、病院長が有する権限を明確化することを目的とする。また、病院長をサポートする副院長等の役割を明確化し、当院医療体制の質の向上に寄与することを目的とする。

(病院長の役割)

第2条 病院長は、理事長から権限移譲を受け、以下の職務を執り行う。

- (1) 安全管理部、感染制御部など、院内最重要部門を直属の組織として管理する。
- (2) 副院長、副院長補佐を統括して病院運営を行う。
- (3) 病院内各種委員会の委員長を任命する。
- (4) 医学部准教授以上の臨床系教員の採用・昇任等に、病院長の立場で審議に加わる。
- (5) 病院の管理運営責任者として、医療機器購入の必要性や機器選定の検討を行う。

(副院長の役割)

第3条 副院長は、帝京大学医学部附属病院規程に基づき、以下の職務を執り行う。

- (1) 病院長の業務を補佐する。
- (2) 診療部門、安全管理部門、総務部門の3部門を分掌する。
- (3) 診療部門の担当副院長は、患者診療と患者支援を担当する。
- (4) 安全管理部門の担当副院長は、医療安全、倫理および施設設備管理を担当する。
- (5) 総務部門の担当副院長は、職員管理、教育研修および情報管理を担当する。
- (6) 病院長および副院長補佐と分担し、病院内の各種委員会を統括する。
- (7) 副院長補佐と分担し、関連する診療科ごとに安全管理業務を担当する。

(副院長補佐の役割)

第4条 副院長補佐は、帝京大学医学部附属病院規程に基づき、以下の職務を執り行う。

- (1) それぞれの担当副院長の業務を補佐する。
- (2) 病院長および3名の副院長と分担し、病院内の各種委員会を統括する。
- (3) 副院長と分担し、関連する診療科ごとに安全管理業務を担当する。

(病院長、副院長の職務代行)

第5条 副院長は病院長が不在に当たってはその業務を代行する。

副院長補佐は副院長が不在に当たってはその業務を代行する。

(副院長・副院長補佐の選任)

第6条 副院長、副院長補佐は理事長が必要と認めたとき、病院長と協議して理事長が選任する。

(雑則)

第7条 この細則の改廃は、理事長の承認をもって決定する。

(附則)

この細則は、2018年8月15日から施行する。

この細則は、2022年4月1日から施行する。

【改訂履歴】

改訂日付	改訂箇所	改訂内容	改訂者
2022/4/1	第5条。第6条	新規追加	事務長

学校法人 帝京大学寄附行為

第一章 総 則

(名 称)

第 一 条 この法人は、学校法人帝京大学と称する。

(事務所)

第 二 条 この法人は、事務所を東京都板橋区加賀二丁目11番1号に置く。

第二章 目的及び設置する学校

(目 的)

第 三 条 この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、私立学校を設置し、建学の精神に基づいた教育を行い、有為な人材を育成することを目的とする。

(設置する学校)

第 四 条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。

- | | |
|------------|---|
| 一 帝京大学 大学院 | 医学研究科 文学研究科 薬学研究科 経済学研究科 法学研究科 理工学研究科 理工学研究科(通信教育課程) 医療技術学研究科 教職研究科 公衆衛生学研究科 外国語研究科 保健学研究科 総合データ応用プログラム 医療データサイエンスプログラム |
| 文学部 | 日本文化学科 史学科 社会学科 心理学科 |
| 外国語学部 | 外国語学科 国際日本学科 |
| 教育学部 | 教育文化学科 初等教育学科 |
| 経済学部 | 経済学科 経営学科 観光経営学科 地域経済学科 国際経済学科 |
| 法学部 | 法律学科 政治学科 |
| 医学部 | 医学科 |
| 薬学部 | 薬学科 |
| 理工学部 | 機械・精密システム工学科 航空宇宙工学科 情報電子工学科 バイオサイエンス学科 情報科学科通信教育課程 |
| 医療技術学部 | 視能矯正学科 看護学科 診療放射線学科 臨床検査学科 スポーツ医療学科 柔道整復学科 |
| 福岡医療技術学部 | 理学療法学科 作業療法学科 看護学科 診療放射線学科 医療技術学科 |
| 二 帝京大学短期大学 | 人間文化学科 現代ビジネス学科 |

- 三 帝京大学高等学校 普通科（全日制課程）
- 四 帝京大学可児高等学校 普通科（全日制課程）
- 五 帝京第三高等学校 普通科（全日制課程）
- 六 帝京大学中学校
- 七 帝京大学可児中学校
- 八 帝京大学小学校
- 九 帝京大学可児小学校
- 一〇 帝京幼稚園
- 一一 帝京大学幼稚園
- 一二 帝京高等看護学院（医療専門課程）
- 一三 帝京山梨看護専門学校（医療専門課程）

第三章 役員及び理事会

（役員）

第五 条 この法人に、次の役員を置く。

- 一 理事 七人
 - 二 監事 二人
- 2 理事のうち一人を理事長とし、理事総数の過半数の議決により選任する。理事長の職を解任するときは、理事総数の三分の二以上の議決を要する。
- 3 理事（理事長を除く。）のうち一人を常務理事とし、理事総数の過半数の議決により選任する。常務理事の職を解任するときは、理事総数の三分の二以上の議決を要する。

（理事の選任）

第六 条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 帝京大学の学長
 - 二 帝京大学の副学長、学部長、短期大学の学長のうちから理事会において選任した者 二人
 - 三 評議員のうちから評議員会において選任した者 三人
 - 四 学識経験者のうちから理事会において選任した者 一人
- 2 前項第一号から第三号までの理事は、学長、副学長、学部長、短期大学の学長又は評議員の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。

（監事の選任及び職務）

- 第七 条 監事は、この法人の理事、職員（学長（校長）、教員その他の職員を含む。以下同じ。）、評議員又は役員の配偶者若しくは三親等以内の親族以外の者であって理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。
- 2 前項の選任に当たっては、監事の独立性を確保し、かつ、利益相反を適切に防止することができる者を選任するものとする。
- 3 監事は、次の各号に掲げる職務を行う。

- 一 この法人の業務を監査すること
 - 二 この法人の財産の状況を監査すること
 - 三 この法人の理事の業務執行の状況を監査すること
 - 四 この法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後二月以内に理事会及び評議員会に提出すること
 - 五 第一号から第三号までの規定による監査の結果、この法人の業務若しくは財産又は理事の業務執行に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること
 - 六 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して理事会及び評議員会の招集を請求すること
 - 七 この法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、理事会に出席して意見を述べること
- 4 前項第六号の請求があった日から五日以内に、その請求があった日から二週間以内の日を理事会又は評議員会の日とする理事会又は評議員会の招集の通知が発せられない場合には、その請求をした監事は、理事会又は評議員会を招集することができる。
- 5 監事は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令若しくは寄附行為に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、当該行為によってこの法人に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、当該理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

(役員任期)

- 第 八 条 役員（第六条第1項第一号に掲げる理事を除く。以下この条において同じ。）の任期は、四年とする。ただし、補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。
- 2 役員は、再任されることができる。
 - 3 役員は、任期満了のあとでも後任の役員が選任されるまでは、なお、その職務（理事長又は常務理事にあっては、その職務を含む。）を行う。

(役員補充)

- 第 九 条 理事又は監事のうち、その定数の五分の一をこえる者が欠けたときは、一月以内に補充しなければならない。

(役員解任及び退任)

- 第 十 条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事総数の四分の三以上出席した理事会において、理事総数の四分の三以上の議決及び評議員会において評議員総数の三分の二以上の議決により、これを解任することができる。
- 一 法令の規定又はこの寄附行為に著しく違反したとき
 - 二 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき
 - 三 職務上の義務に著しく違反したとき

- 四 役員たるにふさわしくない重大な非行があったとき
- 2 役員は次の事由によって退任する。
 - 一 任期の満了
 - 二 辞任
 - 三 死亡
- 四 私立学校法第三十八条第8項第一号又は第二号に掲げる事由に該当するに至ったとき

(理事会)

- 第 十 一 条 この法人に理事をもって組織する理事会を置く。
- 2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の遂行を監督する。
 - 3 理事会は、理事長が招集する。
 - 4 理事長は、理事総数の三分の二以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から七日以内に、これを招集しなければならない。
 - 5 理事会を招集するには、各理事及び監事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面又は電磁的方法により通知しなければならない。
 - 6 前項の通知は、会議の七日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りでない。
 - 7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。
 - 8 理事長が第4項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。
 - 9 第七条第4項及び前項の規定に基づき理事会を招集した場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。
 - 10 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数の理事が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。ただし、第13項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りでない。
 - 11 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面又は電磁的方法をもって、あらかじめ意思表示をした者は、出席者とみなす。
 - 12 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めのある場合を除くほか、出席理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
 - 13 理事会の決議について直接の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(業務の決定の委任)

第十二条 法令及びこの寄附行為の規定により評議員会に付議しなければならない事項その他この法人の業務に関する重要事項以外の決定であつて、あらかじめ理事会において定めたものについては、理事会において指名した理事に委任することができる。

(理事長及び常務理事の職務)

第十三条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 常務理事は、理事長の業務を補佐し、この法人の全ての業務について代表する。

(理事の代表権の制限)

第十四条 理事長及び常務理事以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

(理事長職務の代理等)

第十五条 理事長に事故あるとき、又は理事長が欠けたときは、あらかじめ理事会において指名された理事がその職務を代理し、又はその職務を行う。

(議事録)

第十六条 議長は、理事会の開催の場所（当該場所に存しない役員が理事会に出席をした場合における当該出席の方法を含む。）及び日時並びに議決事項及びその他の事項について、議事録を作成しなければならない。

2 議事録には、出席理事及び監事が署名（電磁的記録により作成される議事録にあつては、電子署名。以下同じ。）若しくは記名押印し、又は議長並びに出席理事のうちから互選された理事二人以上及び出席監事が署名し、常にこれを事務所に備えて置かなければならない。

3 利益相反取引に関する承認の決議については、理事それぞれの意思を議事録に記載しなければならない。

第四章 評議員会及び評議員

(評議員会)

第十七条 この法人に、評議員会を置く。

2 評議員会は、十五人の評議員をもって組織する。

3 評議員会は、理事長が招集する。

4 理事長は、評議員総数の三分の一以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から二十日以内に、これを招集しなければならない。

5 評議員会を招集するには、各評議員及び監事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面又は電磁的方法により通知しなければならない。

6 前項の通知は、会議の七日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。

7 評議員会に議長を置き、議長は、評議員のうちから評議員会において選任す

る。

- 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決することができない。ただし、第12項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りではない。
- 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面又は電磁的方法をもって、あらかじめ意思表示した者は、出席者とみなす。
- 10 評議員会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 11 前項の場合において、議長は、評議員として議決に加わることができない。
- 12 評議員会の決議について直接の利害関係を有する評議員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

- 第十八条 第十六条第1項の規定は、評議員会の議事録の作成について準用する。
- 2 議事録には、出席評議員及び監事が署名若しくは記名押印し、又は議長並びに出席評議員のうちから互選された評議員二人以上及び出席監事が署名し、常にこれを事務所に備えて置かなければならない。

(諮問事項)

- 第十九条 次の各号に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。
- 一 予算及び事業計画
 - 二 事業に関する中期的な計画
 - 三 借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分
 - 四 役員に対する報酬等（報酬、賞与その他の職務遂行の対価として受ける財産上の利益及び退職手当をいう。以下同じ。）の支給の基準
 - 五 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
 - 六 寄附行為の変更
 - 七 合併
 - 八 目的たる事業の成功の不能による解散
 - 九 寄附金品の募集に関する事項
 - 十 その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

(評議員会の意見具申等)

- 第二十条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

(評議員の選任)

- 第二十一条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。
- 一 この法人の職員（この法人の設置する学校の教員及び事務職員を含む。）で理事会において推せんされた者のうちから、評議員会において選任した者

五人

- 二 この法人の設置する学校を卒業した者で年齢二十五年以上のものの中から、理事会において選任した者 一人
 - 三 学識経験者のうちから、理事会において選任した者 四人
 - 四 この法人に功労ありたる者の中から、理事会において選任した者 五人
- 2 前項第一号に規定する評議員は、この法人の職員の地位を退いたときは評議員の職を失うものとする。

(任 期)

- 第二十二條 評議員の任期は、四年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 2 評議員は、再任されることができる。
 - 3 評議員は、任期満了の後でも後任の評議員が選任されるまでは、なお、その職務を行う。

(評議員の解任及び退任)

- 第二十三條 評議員が次の各号の一に該当するに至ったときは、評議員総数の三分の二以上の議決により、これを解任することができる。
- 一 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき
 - 二 評議員たるにふさわしくない重大な非行があったとき
- 2 評議員は次の事由によって退任する。
- 一 任期の満了
 - 二 辞任
 - 三 死亡

第五章 資産及び会計

(資 産)

- 第二十四條 この法人の資産は、財産目録記載のとおりとする。

(資産の区分)

- 第二十五條 この法人の資産は、これを分けて基本財産、運用財産とする。
- 2 基本財産は、この法人の設置する学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産及び将来基本財産に編入される財産とする。
 - 3 運用財産は、この法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中運用財産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入される財産とする。
 - 4 寄附金品については、寄附者の指定がある場合には、その指定に従って基本財産又は運用財産に編入する。

(基本財産の処分の制限)

第二十六条 基本財産は、これを処分してはならない。ただし、この法人の事業の遂行上やむを得ない理由のあるときには、理事会において理事総数の三分の二以上の議決を得て、その一部に限り処分することができる。

(積立金の保管)

第二十七条 基本財産及び運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、又は確実な信託銀行に信託し、又は確実な銀行に定期預金とし、若しくは定額郵便貯金として理事長が保管する。

(経費の支弁)

第二十八条 この法人の設置する学校の経営に要する費用は、基本財産並びに運用財産中の不動産及び積立金から生ずる果実、授業料収入、入学金収入、検定料収入その他の運用財産をもって支弁する。

(会 計)

第二十九条 この法人の会計は、学校法人会計基準により行う。

(予算、事業計画及び事業に関する中期的な計画)

第三十条 この法人の予算及び事業計画は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、理事会において出席理事の三分の二以上の議決を得なければならない。これに重要な変更を加えようとするときも、同様とする。

- 2 この法人の事業に関する中期的な計画は、五年以上十年以内において理事会で定める期間ごとに、理事長が編成し、理事会において出席理事の三分の二以上の議決を得なければならない。これに重要な変更を加えようとするときも、同様とする。

(予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄)

第三十一条 予算をもって定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会において出席理事の三分の二以上の議決がなければならない。借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）についても、同様とする。

(決算及び実績の報告)

第三十二条 この法人の決算は、毎会計年度終了後二月以内に作成し、監事の意見を求めるものとする。

- 2 理事長は、毎会計年度終了後二月以内に、決算及び事業の実績を評議員会に報告し、その意見を求めなければならない。

(財産目録等の備付け及び閲覧)

第三十三条 この法人は、毎会計年度終了後二月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び役員等名簿（理事、監事及び評議員の氏名及び住所を記載した名簿をいう。）を作成しなければならない。

- 2 この法人は、前項の書類、監査報告書、役員に対する報酬等の支給の基準及び寄附行為を事務所に備えて置き、請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。
- 3 前項の規定にかかわらず、この法人は、役員等名簿について同項の請求があ

った場合には、役員等名簿に記載された事項中、個人の住所に係る記載の部分を除外して、同項の閲覧をさせることができる。

(情報の公表)

- 第三十四条 この法人は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、遅滞なく、インターネットの利用により、当該各号に定める事項を公表しなければならない。
- 一 寄附行為若しくは寄附行為変更の認可を受けたとき、又は寄附行為変更の届出をしたとき 寄附行為の内容
 - 二 監査報告書を作成したとき 当該監査報告書の内容
 - 三 財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び役員等名簿（個人の住所に係る記載の部分を除く。）を作成したとき これらの書類の内容
 - 四 役員に対する報酬等の支給の基準を定めたとき 当該報酬等の支給の基準

(役員報酬)

- 第三十五条 役員に対して、別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(資産総額の変更登記)

- 第三十六条 この法人の資産総額の変更は、毎会計年度末の現在により、会計年度終了後三月以内に登記しなければならない。

(会計年度)

- 第三十七条 この法人の会計年度は、四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わるものとする。

第六章 解散及び合併

(解散)

- 第三十八条 この法人は、次の各号に掲げる事由によって解散する。
- 一 理事会における理事総数の三分の二以上の議決及び評議員会の議決
 - 二 この法人の目的たる事業の成功の不能となった場合で、理事会における出席理事の三分の二以上の議決
 - 三 合併
 - 四 破産
 - 五 文部科学大臣の解散命令
- 2 前項第一号に掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認可を、同項第二号に掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認定を受けなければならない。

(残余財産の帰属者)

- 第三十九条 この法人が解散した場合（合併又は破産によって解散した場合を除く。）における残余財産は、解散のときにおける理事会において出席理事の三分の二以上の議決により選定した学校法人又は教育の事業を行う公益社団法人若しくは公益財団法人に帰属する。

(合併)

第四十条 この法人が合併しようとするときは、理事会において理事総数の三分の二以上の議決を得て文部科学大臣の認可を受けなければならない。

第七章 寄附行為の変更

(寄附行為の変更)

第四十一条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事会において理事総数の三分の二以上の議決を得て、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

2 私立学校法施行規則に定める届出事項については、前項の規定にかかわらず、理事会において出席理事の三分の二以上の議決を得て、文部科学大臣に届け出なければならない。

第八章 補 則

(責任の免除)

第四十二条 役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。

(責任限定契約)

第四十三条 理事（理事長、常務理事、業務を執行したその他の理事又はこの法人の職員でないものに限る。）又は監事（以下この条において「非業務執行理事等」という。）が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金一百万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

(書類及び帳簿の備付け)

第四十四条 この法人は、第三十三条第2項の書類のほか、次の各号に掲げる書類及び帳簿を、常に事務所に備えて置かなければならない。

- 一 役員及び評議員の履歴書
- 二 収入及び支出に関する帳簿及び証ひょう書類
- 三 その他必要な書類及び帳簿

(公告の方法)

第四十五条 この法人の公告は、学校法人帝京大学の掲示場に掲示して行う。

(施行細則)

第四十六条 この寄附行為の施行についての細則その他この法人及びこの法人の設置する学校の管理及び運営に関し必要な事項は、理事会が定める。

附 則

- 一、この寄附行為は昭和二十六年三月三十日から施行する。
- 二、この法人の設立当初の役員は次のとおりとする。

理事（理事長）	冲 永 莊 兵 衛
理 事	冲 永 莊 一
理 事	尾 中 勝 也
理 事	藤 原 澄 雄
理 事	忠 石 弘 治
監 事	三 宅 正 太 郎
監 事	三 宅 清 子

附 則

この寄附行為は昭和三十四年三月から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和三十六年三月から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和三十七年二月八日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和三十八年三月十四日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十年三月二十日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十一年一月二十五日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十二年二月七日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十二年三月七日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十五年三月から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十六年三月三十一日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和四十八年三月二十八日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十二年一月十日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十二年三月三十日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十四年三月三十日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十四年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十六年三月二十六日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十七年三月十七日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十八年三月七日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十八年三月二十四日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十八年十二月二十二日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和五十九年三月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和六十年十二月二十五日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和六十二年二月三日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和六十二年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和六十二年十二月二十三日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和六十三年一月十三日から施行する。

附 則

この寄附行為は昭和六十三年十二月二十二日から施行する。

附 則

この寄附行為は平成元年三月十三日から施行する。

附 則

この寄附行為は平成六年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は平成九年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は平成十年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は平成十一年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は平成十二年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十三年四月一日から施行する。

(帝京大学福岡短期大学の経営情報学科の存続に関する経過措置)

帝京大学福岡短期大学の経営情報学科は、改正後の寄附行為第四条第三号の規定にかかわらず平成十三年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、平成十四年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十六年三月五日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十六年三月十三日から施行する。

附 則

平成十五年十一月二十七日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十六年四月一日から施行する。

附 則

平成十六年十二月二十四日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十七年四月一日から施行する。

附 則

平成十七年三月三十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十七年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十七年四月一日から施行する。

(帝京大学文学部日本アジア言語文化学科の存続に関する経過措置)

帝京大学文学部日本アジア言語文化学科は、改正後の寄附行為第四条第一号の規定にかかわらず平成十七年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、理事会承認の日（平成十七年十二月四日）から施行する。

附 則

一、この寄附行為は文部科学大臣の認可を受けた日（平成十八年三月十日）から施行する。

二、この寄附行為による改正後の役員任期及び評議員任期の規定は、この寄附行為改正後新たに選任された役員及び評議員から適用し、この寄附行為改正前からの役員及び評議員については、なお従前の例による。

附 則

平成十八年一月三十一日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十八年四月一

日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十八年四月一日から施行する。

(帝京大学経済学部環境ビジネス学科の存続に関する経過措置)

帝京大学経済学部環境ビジネス学科は、改正後の寄附行為第四条の規定にかかわらず平成十八年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

(帝京大学短期大学国際コミュニケーション学科、情報ビジネス学科の存続に関する経過措置)

帝京大学短期大学国際コミュニケーション学科、情報ビジネス学科は、改正後の寄附行為第四条の規定にかかわらず平成十八年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成十八年六月十四日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成十八年十一月三十日）から施行する。

附 則

平成十八年十一月三十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十九年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成十九年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十年三月二十一日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十年十一月十四日）から施行する。

附 則

平成二十年十二月二十四日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十一年四月一日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成二十二年四月一日から施行する。

附 則

平成二十二年十月二十九日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十三年四月一日から施行する。

- 附 則
この寄附行為は、平成二十三年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成二十三年六月十八日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十三年十一月三十日）から施行する。
- 附 則
平成二十四年一月五日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十四年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成二十四年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成二十四年五月二十七日から施行する。
- 附 則
平成二十四年十一月二十日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十五年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成二十五年十二月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成二十六年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成二十六年六月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成二十七年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成三十年一月二十四日）から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成三十年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、平成三十年六月一日から施行する。
- 附 則
令和二（2020）年三月二十四日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、令和二（2020）年四月一日から施行する。
- 附 則
この寄附行為は、令和二（2020）年四月一日から施行する。
- 附 則
令和三（2021）年十一月五日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、令和四

(2022)年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、令和四（2022）年四月一日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（令和四（2022）年六月二十九日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、令和五（2023）年四月一日から施行する。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>○ホームページ・広報誌 各診療科の紹介や診療内容、特色、外来診療担当表等、患者に対し分かりやすく適切に表示している。</p> <p>○地域住民や患者に向けた公開講座の実施 年によって異なるが、年間最高で6回実施をしており、社会的にも話題になっている生活習慣病や心臓疾患等、専門分野別にテーマを決め、各診療科の医師が病状や受診のタイミング等も分かりやすく説明している。</p> <p>○その他 各診療科、看護部等で地域住民や患者に対し、市民公開講座や体験講座等を実施している。(ナーシングフェスタ、がん情報サロン等)</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>○ER及び外傷センター ERは1次から2次までの疾患患者に対応し、その内外傷患者は外傷センターの医師が対応している。また、同じフロアに3次救急に対応する救命救急センターが隣接しているため、救命救急センター・ER・外傷センターの連携も緊密になっている。 全診療科に支援体制があり、24時間体制で該当科にコンサルト可能である。</p> <p>○循環器センター 循環器内科、心臓血管外科との連携・協力体制で行っている。カテーテルによる大動脈弁に対する人工弁の植え込みも可能であるが、循環器内科、心臓血管外科、麻酔科によるハートチームを形成し更なる連携体制を整えている。</p> <p>○静脈瘤センター 皮膚科・循環器内科・心臓血管外科との連携・協力体制で行っている。静脈瘤の有無や程度を超音波で検査し、現状の評価と適切な治療の提案を行っている。</p> <p>○スポーツ外傷・関節鏡センター 帝京大学スポーツ医科学センターとの連携や各関節の専門医・リハビリ医とも協力し、スポーツ活動の受傷前レベルへの早期復帰のため診療を行っている。</p> <p>○周術期管理センター 外科系医師、看護師、麻酔科医師、コンサルト先診療科、歯科口腔外科、薬剤部、栄養部、リハビリテーション部、ME部、事務部、医療システム部などがそれぞれの専門分野を生かし、患</p>	

者家族が周術期を乗り切るための最適な環境を提供している。

○その他

集中治療部（G I C U）や帝京がんセンター等も複数の診療科と連携体制がある。

上記以外の専門診療センター